

ユニバーサル・バンキング・モデルの業績維持

クレディ・アグリコル S.A. およびクレディ・アグリコル・グループの表示実績及び基礎的実績（2024年度第2四半期）

	クレディ・アグリコル S.A.		クレディ・アグリコル・グループ	
	表示	基礎的	表示	基礎的
収益	67億 9600万ユーロ 前年同期比+1.8%	67億 5400万ユーロ 前年同期比+6.7%	95億 700万ユーロ 前年同期比-0.4%	94億 4300万ユーロ 前年同期比+3.1%
経費	-36億 2100万ユーロ 前年同期比+12.6%	-35億 9100万ユーロ 前年同期比+12.4%	-56億 8700万ユーロ 前年同期比+8.8%	-56億 5700万ユーロ 前年同期比+8.6%
営業総利益	31億 7500万ユーロ 前年同期比-8.3%	31億 6300万ユーロ 前年同期比+1.0%	38億 1900万ユーロ 前年同期比-11.6%	37億 8500万ユーロ 前年同期比-4.2%
リスク関連費用	-4億 2400万ユーロ 前年同期比-20.7%	-4億 2400万ユーロ 前年同期比-5.8%	-8億 7200万ユーロ 前年同期比-7.1%	-8億 7200万ユーロ 前年同期比+2.1%
純利益グループ 帰属分	18億 2800万ユーロ 前年同期比-10.4%	18億 2300万ユーロ 前年同期比-1.5%	20億 2800万ユーロ 前年同期比-18.3%	20億 600万ユーロ 前年同期比-10.8%
コスト比率	53.3% 前年同期比+5.1ポイント	53.2% 前年同期比+2.6ポイント	59.8% 前年同期比+5.0ポイント	59.9% 前年同期比+3.0ポイント

上半期の業績は力強い伸び、2024年の純利益グループ帰属分 60 億ユーロ超の目標を確認

モビリティ事業の再編に関連する特別損益項目のあった 2023 年度第 2 四半期以降、四半期業績は非常に好調

- イタリアの預金保証基金（DGS）への拠出の時差の影響を除いた基礎純利益グループ帰属分の伸びは 0.2%
- 収益は高水準、基礎的な見通しが大幅に向上
- コスト比率は低水準、連結範囲変更の影響と DGS の影響を除いた基礎的経費の 5.7%増を伴う事業部門の発展を下支え

全事業部門の活動が好調

- リテール・バンキングおよび消費者金融の業績は堅調、良好な顧客獲得、フランスおよびイタリアでの資金流入の増加、フランスの住宅ローン活動の回復の始まり、フランスの企業向け貸付組成の微増、国際的な貸付活動の高成長、消費者金融活動の高止まりが後押し
- CIB、資産運用および保険の活動が好調、その結果、生命保険の総資金流入は高水準に、損害保険および個人保険の保険料収入は順調に拡大、CIB の半期業績は過去最高、資金流入が増加、運用資産は過去最高

継続中の戦略的プロジェクト

- Degroof Petercam の過半数株式の取得
- Alpha Associates の買収
- Victory Capital とのパートナーシップに関する最終契約

非常に強固な資本・流動性ポジション

- クレディ・アグリコル S.A. の段階的導入 CET1 レシオは 11.6%
- CA グループの段階的導入 CET1 レシオは 17.3%

ドミニク・ルフェーブル

SAS Rue La Boétie の会長兼クレディ・アグリコル S.A.の取締役会議長

「今回の業績は、当グループのユニバーサル・バンキング・モデルが堅実で恒常的な業績を達成できることを改めて証明しました。全体として、当グループが顧客のお役に立てることを体現しています」

フィリップ・ブラサック

クレディ・アグリコル S.A.最高経営責任者

「四半期および半期の業績は非常に好調で、2024年の純利益グループ帰属分が2025年に1年早く到達するという目標を確認できました」

本プレスリリースは、クレディ・アグリコル S.A.に加え、クレディ・アグリコル S.A.の各事業体とクレディ・アグリコル S.A.の62.8%を保有するクレディ・アグリコル地域銀行から構成されるクレディ・アグリコル・グループの業績についてコメントしています。基礎純利益計算のためのあらゆる指標において修正再表示されている特殊要因の詳細については、当プレスリリースの付属資料をご覧ください。

クレディ・アグリコル・グループ

当グループの活動

当グループは今四半期、事業部門全体で営業活動が好調となりました。顧客獲得総数は力強く推移しました。2024 年度第 2 四半期に、当グループはリテール・バンキング部門で 48 万 2,000 人の新規顧客を獲得し、顧客基盤は 7 万 6,000 人増加しました。具体的には、当四半期中、フランスのリテール・バンキング部門の新規顧客数が 38 万 2,000 人増、（イタリアとポーランドの）国際リテールバンキング部門の新規顧客数が 10 万人増となり、顧客基盤も拡大しました（それぞれ 6 万 8,000 人増、8,000 人増）。

2024 年 6 月 30 日現在、リテール・バンキング部門では、オン・バランスシートの預金がフランス及びイタリアで前年同期比 4.4%増の総額 8,320 億ユーロ（地域銀行及び LCL で 4.6%増、イタリアで 2.5%増）となりました。貸付残高は、フランス及びイタリアで前年同期比 0.4%増の総額 8,730 億ユーロ（地域銀行及び LCL で 0.3%増、イタリアで 2.2%増）となりました。当四半期のフランスの住宅ローン組成は 2023 年度第 2 四半期比では引き続き減少し、地方銀行で 34%減、LCL で 42%減となりましたが、2024 年度第 1 四半期比では安定しました（地方銀行で 18%増、LCL で 16%増）。イタリアでは、ローン組成は当四半期も好調に推移し、商業事業に後押しされ、CA イタリアでは 2023 年度第 2 四半期比 40%増となりました。損害保険のクロスセル・レート¹は、地域銀行では 43.5%（2023 年第 2 四半期と比べて 0.7 パーセント・ポイント増）、LCL では 27.8%（同 0.4 パーセント・ポイント増）、CA イタリアでは 19.7%（同 1.8 パーセント・ポイント増）に上昇しました。

資産運用では、資金流入が中長期資産（150 億ユーロ増）やジョイント・ベンチャー（116 億ユーロ増）をはじめとして高水準となりました（155 億ユーロ増）。貯蓄・退職金では、クレディ・アグリコル・アシュアランスが高水準の総資金流入（81 億ユーロ、前年同期比 23.1%増）となり、組成におけるユニット・リンク型商品の比率は高水準（32.2%）で推移し、純資金流入は増加しプラスとなりました（15 億増）。損害保険は、契約ポートフォリオの件数が前年同期比 5.2%増の 1,640 万件となりました。運用資産は再び過去最高水準となり、2023 年 6 月末と比べて、資産運用（2 兆 1,560 億ユーロ、9.9%増）、生命保険（3,380 億ユーロ、3.6%増）、Degroof Petercam の統合の恩恵を受けたウェルス・マネジメント（IWM と LCL で 2,690 億ユーロ、44.6%増）で増加しました。

SFS 部門の活動も安定して高水準で、CA コンシューマー・ファイナンスの消費者金融残高（2023 年 6 月末に比べて 8.2%増）は残高全体の 53%²を占める自動車金融活動が原動力となり増加し、CAL&F の組成及びリース残高も増加しました（198 億ユーロ、2023 年 6 月末に比べて 8.5%増）。

大口顧客の勢いは力強く、プライマリー・クレジットと、商業銀行業務の成長の恩恵を受けた融資活動が原動力となり、法人営業及び投資銀行（第 2 四半期および上半期に拡大）、資本市場及び投資銀行業務の収益が過去最高となりました。CACEIS も、高水準のカストディー資産（4 兆 9,660 億ユーロ、2023 年 6 月末と比べて 16.2%増）と管理資産（3 兆 4,260 億ユーロ、同 50.4%増）となり、第 2 四半期における市場の悪影響があったものの、ISB の統合、商業向けの好調な勢いの恩恵を受けました。

当グループの各事業部門で、力強い活動が見られました（下記参照）。

¹自動車、住宅、法務、すべての携帯電話または個人傷害保険

²CA オートバンク、自動車関連のジョイント・ベンチャー、その他の事業体の自動車事業

エネルギー移行に関する最新情報

当グループは、「ネットゼロ 2050」アプローチの参考指針「*気候移行計画*」を発表しました。当該指針³は、2023 年に発表した指針「*気候のための行動*」を更新したものです。当該指針では、融資対象排出量と事業に関わるフットプリントの両面から、脱炭素化の道筋の実施と方法を詳述しています。

当グループは引き続き、エネルギー移行を促進するための多数の融資および投資を実施しています。これにより、クレディ・アグリコル・グループの低炭素エネルギー融資⁴のエクスポージャーは 2020 年末から 2024 年 3 月までに倍増し、2024 年 3 月 31 日時点で 217 億ユーロとなりました。さらに、CAA の再生可能エネルギー生産への融資は 2022 年末に比べて 17%増加し、2024 年 6 月 30 日時点で 13.8 ギガワットとなりました。

最後に、クレディ・アグリコル CIB のグリーンローンのポートフォリオは⁵、2022 年末から 2024 年 6 月までに 60%増加し、2024 年 6 月 30 日時点で 198 億ユーロとなりました。

³ フランス語版は閲覧可能、現在翻訳中

⁴ クレディ・アグリコル・グループのすべての事業体の顧客が生産する再生可能エネルギーからなり、CACIB の核エネルギー残高を含む低炭素エネルギー残高

⁵ 2023 年 11 月に公表されたグループ・グリーンボンド・フレームワークの適格基準に沿った CACIB グリーン資産ポートフォリオ

当グループの業績

2024 年度第 2 四半期には、クレディ・アグリコル・グループの表示純利益グループ帰属分は、重要な特殊要因（以下を参照）を特徴とし、2023 年第 2 四半期比 18.3%減の 20 億 2,800 万ユーロとなりました。

2024 年度第 2 四半期には特殊要因が、クレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分に 2,200 万ユーロのプラスの影響を与えました。これは、DVA（Debt Valuation Adjustment）、FVA（Funding Valuation Adjustment）の発行体スプレッド部分、純利益グループ帰属分における資本市場と投資銀行業務の担保付き融資に係る 2,700 万ユーロ増、純利益グループ帰属分における大口顧客部門のローンブックのヘッジに係る 400 万ユーロ増など、変動の大きい経常的な会計項目からなります。これらの経常的な会計項目に加えて、当四半期に固有のその他の項目がありました。すなわち、LCL の純利益グループ帰属分の住宅購入貯蓄引当金の戻入による 100 万ユーロ増、地域銀行の純利益グループ帰属分の住宅購入貯蓄引当金の戻入による 1,700 万ユーロ増、コーポレート・センターの純利益グループ帰属分の 100 万ユーロ減、大口顧客部門の純利益グループ帰属分の ISB 統合費用による 1,300 万ユーロ減、アセット・ギャザリング部門の純利益グループ帰属分の Degroof Petercam の統合費用による 400 万ユーロ減、プライベート・バンキング部門の純利益グループ帰属分の Degroof Petercam の買収費用による 900 万ユーロ減です。

2023 年度第 2 四半期の特殊要因は、純利益グループ帰属分に 2 億 3,200 万ユーロのプラスの累積影響を及ぼしました。これには、SFS 部門のモビリティ事業の再編⁶（1 億 4,000 万ユーロ）や小切手画像処理（CIE）の罰金に対する引当金の戻入れ（1 億 400 万ユーロ）を含む非経常的項目 2 億 4,400 万ユーロが含まれました。

これらの特殊要因を除いたクレディ・アグリコル・グループの基礎純利益グループ帰属分⁷は、前年同期比 10.8%減の 20 億 600 万ユーロでした。

クレディ・アグリコル・グループ – 表示実績と基礎的実績（2024 年第 2 四半期と 2023 年第 2 四半期）

€m	Q2-24 stated	Specific items	Q2-24 underlying	Q2-23 stated	Specific items	Q2-23 underlying	Δ Q2/Q2 stated	Δ Q2/Q2 underlying
Revenues	9,507	64	9,443	9,546	388	9,159	(0.4%)	+3.1%
Operating expenses excl. SRF	(5,687)	(30)	(5,657)	(5,233)	(18)	(5,215)	+8.7%	+8.5%
SRF	-	-	-	6	-	6	(100.0%)	(100.0%)
Gross operating income	3,819	34	3,785	4,319	369	3,950	(11.6%)	(4.2%)
Cost of risk	(872)	(0)	(872)	(938)	(84)	(854)	(7.1%)	+2.1%
Equity-accounted entities	74	(0)	74	46	(12)	58	+61.0%	+27.5%
Net income on other assets	(7)	(12)	5	33	28	5	n.m.	(14.5%)
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	3,014	22	2,992	3,460	301	3,160	(12.9%)	(5.3%)
Tax	(762)	(6)	(756)	(772)	(69)	(704)	(1.3%)	+7.4%
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	-	-	-	4	-	4	(100.0%)	(100.0%)
Net income	2,252	16	2,236	2,692	232	2,460	(16.4%)	(9.1%)
Non controlling interests	(224)	6	(230)	(211)	(0)	(211)	+5.9%	+8.7%
Net income Group Share	2,028	22	2,006	2,481	232	2,249	(18.3%)	(10.8%)
Cost/Income ratio excl. SRF (%)	59.8%		59.9%	54.8%		56.9%	+5.0 pp	+3.0 pp

⁶CA コンシューマー・ファイナンス・グループのモビリティ事業の再編は、事業資産の譲渡、受払補償金、CA オートバンク（旧 FCA バンク）の完全連結の会計処理、CA コンシューマー・ファイナンス・グループ内の自動車金融事業の再編（特にアプリケーション・ソリューションの見直し）により、2023 年第 2 四半期のすべての中間営業業績の合計に非経常的な影響を及ぼしました。

⁷特殊要因の詳細については、付属資料を参照のこと。

2024 年度第 2 四半期の**基礎収益**はすべての事業ラインの好業績が原動力となり、前年同期に比べて 3.1%増の 94 億 4,300 万ユーロとなりました。リテール・バンキング部門は安定した収益となり（0.1%増）、アセット・ギャザリング部門は好調な事業活動と Degroof Petercam の統合から恩恵を受け、大口顧客部門は ISB の統合に加え、法人営業及び投資銀行業務からの収益が過去最高水準となり、専門金融サービス部門も連結範囲変更の好影響と数量効果から恩恵を受けました。2024 年度第 2 四半期の**基礎営業費用**は前年同期比 8.6%増の 56 億 5,700 万ユーロとなりました。これには連結範囲変更の影響、イタリア預金保証基金（DGS）への拠出の時差⁸、事業の発展支援などが含まれます。全体として、当グループの**基礎コスト比率**は 2024 年度第 2 四半期に 59.9%となり、3.0 パーセント・ポイント改善しました。その結果、**基礎営業総利益**は、2023 年度第 2 四半期と比べて 4.2%減少し、37 億 8,500 万ユーロとなりました。

基礎信用リスク関連費用は 8 億 7,200 万ユーロで、2023 年度第 1 四半期に比べて 2.1%増加しました。これには正常債権（レベル 1 及び 2）に関する引当金（-1 億 4,300 万ユーロ）、確認済リスク（レベル 3）に関する引当金（-7 億 4,900 万ユーロ）、その他のリスクに関する戻入れ（+2,000 万ユーロ）が含まれます。引当水準は、過去の四半期と同様にいくつかの加重経済シナリオを考慮し、センシティブなポートフォリオに一部調整を加えることによって決定されました。第 2 四半期の加重経済シナリオは更新され、楽観的なシナリオ（フランスの GDP 成長率は 2024 年に+1.2%、2025 年に+1.5%）と楽観的でないシナリオ（フランスの GDP 成長率は 2024 年に-0.2%、2025 年は+0.5%）が含まれています。**残高に対するリスク関連費用⁹**は、**ローリング四半期で 25 ベーシス・ポイントとなり、中期計画の想定の 25 ベーシス・ポイントとほぼ一致する水準となっています。**年換算の四半期ベースでは 30 ベーシス・ポイントです¹⁰。

税引前基礎利益は、前年比 5.3%減の **29 億 9,200 万ユーロ**でした。これには、7,400 万ユーロの持分法適用会社の寄与（+27.5%）、それに当四半期に 500 万ユーロとなったその他の資産からの純利益が含まれます。基礎的**税金費用**は前年同期比 **7.4%増加**し、当四半期の税率は 25.9%（前年同期比 3.2 パーセント・ポイント増）となりました。これは、課税対象外の Cheque Image Exchange の罰金の戻入れに関連する 2023 年度第 2 四半期のベース効果などによるものです。非支配持分控除前の**基礎純利益**は 9.1%減少して 22 億 3,600 万ユーロとなりました。非支配持分は 8.7%増加しました。少数株主持分の変動は当期純利益の変動と乖離しており、主に少数株主持分の対象ではない Banco BPM の評価額の低下によるものです。最後に、**基礎純利益グループ帰属分**は、2023 年第 2 四半期から **10.8%減の 20 億 600 万ユーロ**でした。

⁸2024 年度第 2 四半期に計上すべきであったが、2023 年度第 4 四半期に計上

⁹ローリング 4 四半期の残高に対するリスク関連費用（ベーシス・ポイント）は、過去 4 四半期のリスク関連費用を、当該 4 四半期の各期首時点の残高の平均で除して算出されています。

¹⁰年換算の残高に対するリスク関連費用（ベーシス・ポイント）は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高で除して算出されています。

クレディ・アグリコル・グループ – 表示実績と基礎的実績（2024年上半期と2023年上半期）

€m	H1-24 stated	Specific items	H1-24 underlying	H1-23 stated	Specific items	H1-23 underlyin g	Δ H1/H1 stated	Δ H1/H1 underlyin g
Revenues	19,031	114	18,917	18,473	356	18,117	+3.0%	+4.4%
Operating expenses excl.SRF	(11,276)	(50)	(11,226)	(10,517)	(18)	(10,498)	+7.2%	+6.9%
SRF	-	-	-	(620)	-	(620)	(100.0%)	(100.0%)
Gross operating income	7,755	64	7,691	7,337	338	6,999	+5.7%	+9.9%
Cost of risk	(1,523)	(20)	(1,503)	(1,486)	(84)	(1,402)	+2.5%	+7.2%
Equity-accounted entities	142	(0)	142	153	(12)	165	(7.5%)	(14.2%)
Net income on other assets	(14)	(20)	6	37	28	10	n.m.	(35.3%)
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	6,361	24	6,336	6,042	269	5,773	+5.3%	+9.8%
Tax	(1,517)	(12)	(1,505)	(1,483)	(60)	(1,422)	+2.3%	+5.8%
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	-	-	-	6	-	6	(100.0%)	(100.0%)
Net income	4,843	12	4,831	4,565	209	4,356	+6.1%	+10.9%
Non controlling interests	(432)	10	(442)	(415)	(0)	(415)	+4.0%	+6.5%
Net income Group Share	4,412	22	4,389	4,150	209	3,941	+6.3%	+11.4%
Cost/Income ratio excl.SRF (%)	59.2%		59.3%	56.9%		57.9%	+2.3 pp	+1.4 pp

2024年上半期の表示純利益グループ帰属分は、2023年上半期の41億5,000万ユーロから6.3%増加して44億1,200万ユーロとなりました。

2024年1月～6月の特殊要因には、2024年上半期の地域銀行の特殊要因（地域銀行の項に詳述）とクレディ・アグリコル S.A. の特殊要因（クレディ・アグリコル S.A.の項に詳述）が含まれます。

これらの特殊要因を除いた基礎純利益グループ帰属分は、2023年上半期と比べて11.4%増の43億8,900万ユーロでした。

2024年上半期の基礎収益は189億1,700万ユーロとなり、2023年上半期と比べて4.4%増加しました。増収はすべての事業部門の成長によるもので、コーポレート・センター部門を除いた合計では2023年上半期と比べて4.8%増加しました。

基礎営業費用は、主にインフレ下での報酬の増加、事業の発展のサポート、IT費用、連結範囲変更の影響により、SRFを除くと、2023年上半期と比べて6.9%増加して112億2,600万ユーロとなりました（以下を参照）。2024年上半期の基礎コスト比率は、SRFを除くと、2023年上半期と比べて1.4パーセント・ポイント上昇し、59.3%となりました。2023年のSRFは6億2,000万ユーロでした。

基礎営業総利益は76億9,100万ユーロとなり、2023年上半期と比べて9.9%増加しました。

上半期の基礎リスク関連費用は15億300万ユーロ（うち、残高に対するリスク関連費用が8,500万ユーロ（ステージ1及びステージ2）、確認済みリスク関連費用が14億3,900万ユーロ、主に法定引当の戻入に関連するその他のリスクで+2,100万ユーロ）に増加し、2023年上半期と比べて7.2%増加しました。

2024年6月30日現在、リスク指標はクレディ・アグリコル・グループの資産とリスクに対する引当水準の質の高さを裏付けています。分散されたローンブックでは、主に住宅ローン（残高総額の45%）と企業向け（残高総額の32%）に重点が置かれています。2024年6月末時点の貸倒引当金は212億ユーロ（地域銀行は115億ユーロ）で、うち41%（地域銀行は47%）は正常債権に対する引当金でした。これらの貸倒引当金を慎重に管理することにより、クレディ・アグリコル・グループは、要注意債権引当率を確保しています（2024年6月末時点で82.3%）を達成しています。

2024年上半期の**他の資産に関する純利益**は600万ユーロでした（2023年上半期は1,000万ユーロ）。非継続事業と非支配持分控除前の税引前基礎利益は9.8%増加して63億3,600万ユーロとなりました。税金費用は5.8%増加して15億500万ユーロとなり、基礎的実効税率は2023年上半期と比べて1.1パーセント・ポイント低下し、24.3%となりました。その結果、非支配持分控除前の基礎純利益は10.9%増加しました。非支配持分は2023年上半期には6.5%増加して4億4,200万ユーロとなりました。

その結果、**2024年上半期の基礎純利益グループ帰属分**は、2023年上半期と比べて11.4%増の43億8,900万ユーロとなりました。

地域銀行

総顧客獲得数は前年同期比 27 万 8,000 人増、顧客基盤は同 3 万 8,000 人増となりました。主に要求払預金を利用している顧客の割合は前年同期比 0.5 パーセント・ポイント増の 76.4%となりました。デジタルツールを利用する顧客の割合は 2024 年 6 月末時点で 76%超と、高水準で安定しています。

当四半期には、ローン組成は 2023 年度第 2 四半期比で 23%減少しました。住宅ローンの落ち込みは大幅でしたが（2023 年第 2 四半期比 34%減）、今四半期に回復に転じました（2024 年第 1 四半期比 18%増）。4 月および 5 月の住宅ローンの平均貸出金利¹¹は 3.67%で、2024 年第 1 四半期を 17 ベーシス・ポイント下回りました。2024 年 6 月末の貸付残高は 6,440 億ユーロで、すべての市場で横ばい（2023 年 6 月末比 0.2%増）となりました。

2024 年 6 月末時点の顧客資産総額は好調で、前年同期比 3.7%増の 8,980 億ユーロとなりました。この伸びの原動力は、オン・バランスシートの預金（2024 年 6 月末時点で前年同期比 3.9%増の 6,020 億ユーロ）と顧客資産（ユニット・リンク型債券への資金流入により前年同期比 3.2%増の 2,960 億ユーロ）でした。オン・バランスシートの預金は、定期預金（前年同期比 4%増）と要求払預金（同 1.9%増）が原動力となりました。

2024 年 6 月末の損害保険のクロスセル・レートは 43.5%となり、引き続き上昇しました（2023 年 6 月末と比べて 0.7 パーセント・ポイント上昇）。支払手段では、カード枚数が前年同期比 1.5%増加し、プレミアムカードの割合が総数ベースで前年同期比 1.5 パーセント・ポイント増加しカード全体の 15.6%を占めました。

SAS Rue La Boétie の配当¹²を含む 2024 年度第 1 四半期の地域銀行の連結収益は、2023 年度第 2 四半期比 7.2%増加し、53 億 500 万ユーロになりました。純利鞘は 4.9%減少しました。ポートフォリオ収益は 17.4%増加し、受取配当金も同程度の増加となりました。生命保険や口座管理などの手数料収入は 2023 年度第 2 四半期比で 3.1%増加しました。

営業費用は 4.7%増加しました。退職給付関連のベース効果を除くと、3.1%増でした。営業総利益は 9.6%増加しました。リスク関連費用は確認済みリスクの増加などにより、2023 年度第 2 四半期比 12.5%増の 4 億 5,900 万ユーロとなりました。残高に対するリスク関連費用は抑制され、20 ベーシス・ポイントとなりました。

SAS Rue La Boétie の配当¹²を含む 2024 年度第 2 四半期の地域銀行の連結純利益は、2023 年度第 2 四半期比で 11%増加し、22 億 6,200 万ユーロになりました。

2024 年度第 2 四半期の地域銀行の純利益グループ帰属分は、2023 年度第 2 四半期比 50%減の 2 億 800 万ユーロでした。

2024 年上半期には、SAS Rue La Boétie の配当を含む収益は、2023 年上半期と比べて増加（3.9%増）しました。営業費用は 2023 年上半期比で 0.9%増加し（退職給付関連のベース効果を除くと同 0.1%増）、その結果、営業総利益は同 8.5%増となりました。最後に、リスク関連費用が 22.4%増加したのに伴い、SAS Rue La Boétie の配当を含む地域銀行の純利益グループ帰属分は、2023 年上半期と比べて 9.3%増加し、27 億 100 万ユーロになりました。

2024 年上半期には、クレディ・アグリコル・グループの業績への地域銀行の寄与は、表示純利益グループ帰属分が 6 億 5,000 万ユーロ（22%減）となり、収益が 65 億 6,800 万ユーロ（1.8%減）、リスク関連費用が 6 億 9,100 万ユーロ（19.8%増）となりました。

¹¹4 月および 5 月の月間組成ローンの平均金利

¹²SAS Rue La Boétie の年間配当は第 2 四半期に支払われます。

クレディ・アグリコル S.A.

業績

2024 年第 2 四半期の財務諸表を検証するため、ドミニク・ルフェーブルを議長とするクレディ・アグリコル S.A.の取締役会が 2024 年 7 月 31 日に開かれました。

クレディ・アグリコル S.A. – 表示実績と基礎的実績 (2024 年第 2 四半期と 2023 年第 2 四半期)

€m	Q2-24 stated	Specific items	Q2-24 underlying	Q2-23 stated	Specific items	Q2-23 underlying	Δ Q2/Q2 stated	Δ Q2/Q2 underlying
Revenues	6,796	42	6,754	6,676	346	6,329	+1.8%	+6.7%
Operating expenses excl. SRF	(3,621)	(30)	(3,591)	(3,218)	(18)	(3,200)	+12.5%	+12.2%
SRF	-	-	-	4	-	4	(100.0%)	(100.0%)
Gross operating income	3,175	12	3,163	3,461	328	3,133	(8.3%)	+1.0%
Cost of risk	(424)	(0)	(424)	(534)	(84)	(450)	(20.7%)	(5.8%)
Equity-accounted entities	47	(0)	47	27	(12)	39	+73.7%	+20.1%
Net income on other assets	15	(12)	27	29	28	1	(46.7%)	x 23.3
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	2,814	(0)	2,814	2,983	259	2,724	(5.7%)	+3.3%
Tax	(704)	(1)	(703)	(677)	(69)	(609)	+3.9%	+15.5%
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	-	-	-	4	-	4	n.m.	n.m.
Net income	2,110	(1)	2,111	2,309	190	2,119	(8.6%)	(0.4%)
Non controlling interests	(282)	5	(288)	(269)	(1)	(269)	+4.7%	+7.0%
Net income Group Share	1,828	5	1,823	2,040	190	1,850	(10.4%)	(1.5%)
Earnings per share (€)	0.58	0.00	0.58	0.64	0.06	0.58	(10.4%)	(0.9%)
Cost/Income ratio excl. SRF (%)	53.3%		53.2%	48.2%		50.6%	+5.1 pp	+2.6 pp

2024 年度第 2 四半期のクレディ・アグリコル S.A.の表示純利益グループ帰属分は 2023 年度第 2 四半期比で 10.4%減少して 18 億 2,800 万ユーロとなりました。これは非常に高いものであり、モビリティ事業の再編などに関連する非経常的項目と小切手画像処理の罰金に対する引当金の戻入（以下、参照）から恩恵を受けました。2024 年度第 2 四半期のこの素晴らしい業績は、高収益と低水準に維持されたコスト比率によるものです。

当四半期の**特殊要因**は純利益グループ帰属分に 500 万ユーロのプラスの累積影響を及ぼしました。これには、DVA（負債評価調整）、FVA の発行体スプレッド部分、純利益グループ帰属分における大口顧客部門の担保付き融資に係る 2,700 万ユーロの利益、純利益グループ帰属分における大口顧客部門のローンブックのヘッジに係る 400 万ユーロの利益など、収益における変動の大きい経常的な会計項目が含まれました。これらの経常的な会計項目に加えて、当四半期に固有の項目が多数ありました。すなわち、LCL の純利益グループ帰属分の住宅購入貯蓄引当金の戻入による 100 万ユーロ増、コーポレート・センターの純利益グループ帰属分の 100 万ユーロ増、アセット・ギャザリング部門の純利益グループ帰属分の Degroof Petercam 統合費用による 400 万ユーロ減、大口顧客部門の純利益グループ帰属分の ISB 統合費用による 1,300 万ユーロ減、アセット・ギャザリング部門の純利益グループ帰属分の Degroof Petercam の買収費用による 900 万ユーロ減です。

2023 年度第 2 四半期の**特殊要因**は、純利益グループ帰属分に 1 億 9,000 万ユーロのプラスの累積影響を及ぼしました。これには、SFS 部門のモビリティ事業の再編¹³（1 億 4,000 万ユーロ）や小切手画像処理の罰金に対する引当金の戻入れ

¹³CA コンシューマー・ファイナンス・グループのモビリティ事業の再編は、事業資産の譲渡、受払補償金、CA オートバンク（旧 FCA バンク）の完全連結の会計処理、CA コンシューマー・ファイナンス・グループ内の自動車金融事業の再

(6,200万ユーロ)といった非経常的項目2億100万ユーロが含まれました。経常的項目の純利益グループ帰属分はマイナス1,100万ユーロでした。

特殊要因を除くと、2024年第2四半期の**基礎純利益グループ帰属分¹⁴**は**18億2,300万ユーロ**となりました(2023年第2四半期と比べ1.5%減)。さらに、イタリアの預金保証基金への拠出が2024年度第2四半期に計上されましたが、2023年度は第4四半期に計上されました。預金保証制度(DGS)に関する認識の期間的差異を除いた**基礎純利益グループ帰属分¹⁴**は、2023年度第2四半期比0.2%増と安定しています。

2024年度第2四半期の**基礎収益**は67億5,400万ユーロと高水準になりました。2023年度第2四半期と比べて、6.7%増加しました。この増加は、すべての事業ラインが原動力となりました。アセット・ギャザリング部門は、活発な事業活動とDegroof Petercamの統合¹⁵の恩恵を受けました。大口顧客部門は、ISBの統合¹⁶とCACEISの手数料収入の増加に加え、法人営業及び投資銀行業務の収益が第2四半期に過去最高水準となりました。専門金融サービス部門は、プラスの連結範囲変更の影響¹⁷および数量効果の恩恵を受けました。フランスのリテール・バンキング部門は純利鞘の改善が原動力となり、国際リテール・バンキング部門はイタリアの手数料収入の増加とポーランドの純利鞘の増加恩恵を受けました。コーポレート・センター部門は、マイナス1億5,800万ユーロの基礎的純変動がありました。これは、Banco BPMの株式評価のマイナスの影響やこれを一部相殺した2023年度第2四半期を上回る配当金(両影響を合わせてマイナス7,100万ユーロ)、それに2023年第2四半期に計上された小切手画像処理の罰金に対する引当金の戻入れによるマイナス4,200万ユーロのベース効果によるものでした。

2024年第2四半期の**基礎営業費用**は35億9,100万ユーロで、2023年第2四半期比で12.4%増加しました。前年同期比3億9,500万ユーロの費用増は主に、1億5,600万ユーロの連結範囲変更の影響¹⁸、5,800万ユーロのイタリアの預金保証基金(DGS)への拠出に関する期間的差異、1億3,100万ユーロの従業員費用の増加(事業部門の業績に連動する変動報酬引当金の3,900万ユーロを含む)、5,300万ユーロのIT投資によるものです。連結範囲変更の影響とDGSを除いた基礎的費用は5.7%増加し、1億8,100万ユーロとなりました。

その結果、2024年度第2四半期の**基礎コスト比率**は、2023年度第2四半期と比べて2.6パーセント・ポイント上昇し、53.2%(SRFを除く)となりました。

2024年度第2四半期の**基礎営業総利益**は31億6,300万ユーロとなり、2023年度第2四半期比で1.0%増加しました。DGSの影響の修正再表示後の**基礎営業総利益**は、2023年度第2四半期と比べて2.8%(8,800万ユーロ)増加しました。

2024年6月30日現在、リスク指標は**クレディ・アグリコル S.A.の資産とリスクに対する引当水準の質の高さ**を裏付けています。分散されたローンブックでは、主に住宅ローン(残高総額の26%)と法人向け(クレディ・アグリコル S.A.の残高総額の43%)に重点が置かれています。不良債権比率は前四半期比で低下し、2.5%と低水準で推移しました。不良債権引当率¹⁹は前四半期比で1.6パーセント・ポイント上昇し、71.3%と高い水準になりました。クレディ・アグリコル S.A.の**貸倒引当金**は97億ユーロで、2024年3月末からほぼ横ばいでした。これらの貸倒引当金のうち、34%は正常債権に対するものでした(割合は過去四半期並み)。

基礎リスク関連費用は4億2,400万ユーロ増加し、2023年第2四半期の4億5,000万ユーロと比べて5.8%減少しました。2024年度第2四半期の当該費用4億2,400万ユーロの内訳は、正常債権(ステージ1及び2)に対する引当の戻入3,100万ユーロ(2023年度第2四半期は1,400万ユーロの引当)、確認済みリスク(ステージ3)に対する引当4億9,100万ユーロ(2023年度第2四半期は4億6,800万ユーロ)、その他の項目の引当(法律上の引当)の戻入3,700万ユーロでした。事業ライン別では、2024年度第2四半期の引当について、専門金融サービス部門が50%(2023年度第2四半期は49%)、LCL部門が22%(2023年度第2四半期は15%)、国際リテール・バンキング部門が17%(2023年度第2四半期は28%)を占めました。引当水準は、過去の四半期と同様にいくつかの加重経済シナリオを考慮し、センシティブなポートフォリオに一部調整を加えることによって決定されました。第2四半期の加重経済シナリオは更新され、楽観的なシナリオ(フランスのGDP成長率は2024年に+1.2%、2025年に+1.5%)と楽観的でないシナリオ(フランスのGDP成長率は2024年に-0.2%、2025年は+0.5%)が含まれています。2024年度第2四半期には、残高に対するリス

編(特にアプリケーション・ソリューションの見直し)により、2023年第2四半期のすべての中間営業業績の合計に非経常的な影響を及ぼしました。

¹⁴ 特殊要因を除く、基礎的項目。

¹⁵ Degroof Petercamによる連結範囲変更の収益への影響: 2024年第2四半期に+4,900万ユーロ

¹⁶ ISBによる連結範囲変更の収益への影響: 2024年第2四半期に+1億700万ユーロ

¹⁷ 欧州6か国におけるALD事業およびLeasePlan事業の連結、ならびに2023年度第3四半期のHiflowの過半数の株式取得に関連する連結範囲変更の影響: 収益に+2,400万ユーロ

¹⁸ 2024年第2四半期の費用への連結範囲変更の影響: ISBが1億400万ユーロ、Degroof Petercamが3,500万ユーロ、欧州6か国のALD/LeaseplanとHiflowが1,000万ユーロ、残りはAlpha AssociatesとCATUの連結

¹⁹ ステージ3の残高を分母とし、ステージ1、2及び3で計上された引当金の合計を分子として計算した引当率。

ク関連費用はローリング 4 四半期ベースで²⁰32 ベーシス・ポイント、年換算の四半期ベースで 32 ベーシス・ポイントでした²¹。

2024 年度第 2 四半期の**持分法適用会社**の基礎寄与は 4,700 万ユーロで、2023 年度第 2 四半期比で 20.1%増となりました。これは、資産運用での持分法適用会社の高成長や消費者金融およびモビリティ事業などが原動力となりました。2024 年度第 2 四半期の**その他資産からの基礎的純利益**は、Crédit Agricole Transition & Energie への Unifergie の売却益の実現を含め、2,700 万ユーロとなりました。²²

非継続事業と非支配持分控除前の**税引前²³基礎利益**は 3.3%増加して 28 億 1,400 万ユーロとなりました。**基礎的実効税率**は 25.4%（2023 年度第 2 四半期比で 2.7 パーセント・ポイント増）となりました。これは、課税対象外の小切手画像処理の罰金に関する戻入れに関連する 2023 年度第 2 四半期のベース効果などによるものです。基礎的税金費用は 7 億 300 万ユーロで、15.5%増加しました。**非支配持分控除前の純利益**は 21 億 1,100 万ユーロと安定的に推移しました。**非支配持分**は 2024 年第 2 四半期には 7.0%増加して 2 億 8,800 万ユーロとなりました。非支配持分の変動は当期純利益の変動と乖離しており、主に非支配持分の対象ではない Banco BPM の評価額の低下に関連しています。

2024 年第 2 四半期の**1 株当たり基礎的利益**は、2023 年第 2 四半期と比べて 0.9%減少し、**0.58 ユーロ**になりました。

²⁰ ローリング 4 四半期の残高に対するリスク関連費用（ベーシス・ポイント）は、過去 4 四半期のリスク関連費用を、当該 4 四半期の各期首時点の残高の平均で除して算出されています。

²¹ 年換算の残高に対するリスク関連費用（ベーシス・ポイント）は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高で除して算出されています。

²² Crédit Agricole Transition & Energie は、地域銀行が同社の株式資本の半分を取得したことから、2024 年度第 2 四半期から持分法で会計処理されます。

²³ 特殊要因の詳細については、付属資料を参照のこと。

クレディ・アグリコル S.A. — 表示実績と基礎的実績 (2024 年上半期と 2023 年上半期)

€m	H1-24 stated	Specific items	H1-24 underlying	H1-23 stated	Specific items	H1-23 underlying	Δ H1/H1 stated	Δ H1/H1 underlying
Revenues	13,602	51	13,551	12,797	315	12,482	+6.3%	+8.6%
Operating expenses excl.SRF	(7,289)	(50)	(7,240)	(6,546)	(18)	(6,528)	+11.4%	+10.9%
SRF	-	-	-	(509)	-	(509)	(100.0%)	(100.0%)
Gross operating income	6,312	1	6,311	5,741	296	5,445	+9.9%	+15.9%
Cost of risk	(824)	(20)	(804)	(908)	(84)	(824)	(9.3%)	(2.5%)
Equity-accounted entities	90	(0)	90	113	(12)	125	(20.7%)	(28.4%)
Net income on other assets	9	(20)	29	33	28	5	(72.6%)	x 5.9
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	5,587	(39)	5,626	4,979	227	4,752	+12.2%	+18.4%
Tax	(1,315)	4	(1,319)	(1,199)	(60)	(1,138)	+9.7%	+15.8%
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	-	-	-	6	-	6	n.m.	n.m.
Net income	4,273	(35)	4,308	3,786	167	3,619	+12.9%	+19.0%
Non controlling interests	(542)	10	(551)	(520)	(0)	(519)	+4.2%	+6.2%
Net income Group Share	3,731	(25)	3,756	3,266	167	3,100	+14.2%	+21.2%
Earnings per share (€)	1.08	(0.01)	1.09	1.00	0.06	0.95	+8.2%	+15.4%
Cost/Income ratio excl.SRF (%)	53.6%		53.4%	51.2%		52.3%	+2.4 pp	+1.1 pp

2024 年上半期の表示純利益グループ帰属分は、2023 年上半期の 32 億 6,600 万ユーロから 14.2%増加して 37 億 3,100 万ユーロとなりました。

2024 年上半期の特殊要因は、表示純利益グループ帰属分に 2,500 万ユーロのマイナスの影響を与えました。上記の第 2 四半期の項目に係る 500 万ユーロのプラスの影響に加えて、2023 年度第 1 四半期の特殊要因が純利益グループ帰属分に 3,000 万ユーロのマイナスの影響を及ぼしました。これには、DVA（負債評価調整）、FVA の発行体スプレッド部分、純利益グループ帰属分における大口顧客部門の担保付き融資に係る 400 万ユーロの利益、純利益グループ帰属分における大口顧客部門のローンブックのヘッジに係る 100 万ユーロの利益など、収益における変動の大きい経常的な会計項目が含まれました。これらの経常的な会計項目に加えて、2024 年第 1 四半期に固有の項目が多数ありました。すなわち、LCL の純利益グループ帰属分における住宅購入貯蓄引当金の戻入による 100 万ユーロ増、大口顧客部門の純利益グループ帰属分の ISB 統合費用による 1,000 万ユーロ減、国際リテール・バンキング部門の純利益グループ帰属分のウクライナ・リスク引当金の追加計上による 2,000 万ユーロ減、プライベート・バンキング部門の純利益グループ帰属分の Degroof Petercam の買収費用による 600 万ユーロ減です。

これらの特殊要因を除いた**基礎純利益グループ帰属分**は、2023 年上半期と比べて **21.2%増の 37 億 5,600 万ユーロ**でした。

基礎収益は、すべての事業ラインが原動力となり、2024 年上半期と比べて **8.6%増加**しました。基礎営業費用は、グループの事業の発展および連結範囲変更の影響全体を反映し、2023 年上半期比で 2.9%増加しましたが、SRF²⁴積立期間の終了により一部相殺されました。2024 年上半期には、SRF を除いた基礎コスト比率は、2023 年上半期と比べて 1.1 パーセント・ポイント上昇し、53.4%となりました。基礎営業総利益は 63 億 1,100 万ユーロとなり、2023 年上半期と比べて 15.9%増加しました。最後に、同期間に**基礎リスク関連費用**は 2.5%減少し、8 億 400 万ユーロとなりました（2023 年上半期は 8 億 2,400 万ユーロ）。

²⁴2023 年上半期の SRF 費用は 5 億 900 万ユーロ

2024 年上半期の 1 株当たり基礎利益は 1.09 ユーロとなり、2023 年上半期と比べて 15.4%増加しました。

基礎 RoTE²⁵ は、基礎純利益グループ帰属分の年換算額²⁶及び線形化で年換算された IFRIC の下での費用に基づいて算出されており、年換算後のその他 Tier 1 債券のクーポンを控除して算出され（無形資産を除いたグループ帰属株主資本利益率）、また償還 AT1 債への為替の影響を控除して算出され、資本で認識されている特定の変動の大きい項目について修正再表示され（含み損益を含む）、**2024 年上半期には 15.5%**となり、2023 年上半期と比べて 0.8 パーセント・ポイント上昇しました。

²⁵RoTE（有形株主資本利益率）の計算の詳細については、添付資料を参照してください。

²⁶年換算後の基礎純利益グループ帰属分は、IFRIC の影響を線形化で年換算して各期間を修正することによって、基礎純利益グループ帰属分の年換算（第 1 四半期×4、上半期×2、9 ヶ月累計期間×4/3）したものに相当します。

クレディ・アグリコル S.A.の各事業部門の活動及び業績の分析

アセット・ギャザリング部門の活動

2024年第2四半期のアセット・ギャザリング部門の運用資産は、Degroof Petercam と Alpha Associates の連結に関連する連結範囲変更の影響（770億ユーロ増）、資産運用、保険、ウェルス・マネジメントの3事業部門における良好な水準の純資金流入（合計180億ユーロ増）、およびプラスの市場効果（200億ユーロ増）により、前四半期比1,150億ユーロ増（4.5%増）の2兆7,630億ユーロとなりました。前年同期比では、運用資産は11.7%増加しました。

保険事業（クレディ・アグリコル・アシュアランス）は、2024年第2四半期に非常に好調で、総保険料収入は、貯蓄・退職保険、損害保険、死亡・高度障害・債権者・団体保険の3分野すべてで増加し、2023年度第2四半期と比べて18.9%増加して108億ユーロとなりました。上半期の保険料収入は全体で231億ユーロとなり、2023年上半期と比べて11.2%の増加となりました。

貯蓄・退職保険部門では、第2四半期の保険料収入は2023年度第2四半期比で23.1%増の81億ユーロとなりました。これは、第1四半期に開始されたフランスでのユーロ支払いボーナス・キャンペーンに加えて、国際事業が回復し、ユーロの総流入額を押し上げたことによるものです。総流入額に占めるユニット・リンク型商品の比率は32.2%で、2023年度第2四半期に比べて13.1パーセント・ポイント低下しました。比率の低下は、ユーロの総流入額の回復とユニット・リンク型商品の市場環境の悪化、特にユニット・リンク型債券の魅力の低下に関連しています。当四半期の純流入額は大幅に改善し15億ユーロとなりました。これは主に、ユニットリンク型商品（7億ユーロ増）とユーロ・ファンド（8億ユーロ増）の純流入額合計の増加によるものです。貯蓄・退職保険部門の6月末時点の保険料収入は167億ユーロで、2023年6月末に比べて12.7%増加しました。

生命保険の運用資産（貯蓄・退職金・葬儀保険）は過去最高水準の3,379億ユーロとなり、前年同期比（117億ユーロ増、3.6%増）および前半期比（2023年12月末比で76億ユーロ増、2.3%増）のいずれも増加しました。この運用資産水準を後押ししたのは、純資金流入の増加に加え、プラスの市場効果でした。運用資産に占めるユニット・リンク型商品の割合は29.5%に達し、前年比1.6パーセント・ポイント上昇し、2023年12月末比0.6パーセント・ポイント上昇しました。

政策参加準備金（PPE²⁷）は2024年6月30日時点で92億ユーロとなり、ユーロ残高の4.2%でした。

損害保険事業では、2024年第2四半期の保険料収入は13億ユーロと、2023年第2四半期と比べて6.3%増加²⁸しました。この伸びは数量と価格の効果によるものでした。実際、2024年6月末時点で、ポートフォリオの件数は1,640万件となり²⁹、前年比で5.2%増となりました。また、平均保険料は、商品構成の変化に加え、料率改定の効果もあって上昇しました。最後に、2024年6月末時点のコンバインドレシオは94.6%となり³⁰、前年同期の積立金増加の影響により、前年同期比で1.3パーセント・ポイント減と改善しました。2024年6月末時点の保険料収入は合計で37億ユーロとなり、2023年上半期に比べて7.3%増加しました。

死亡・高度障害、債権者保険及び団体保険では、2024年度第2四半期の保険料収入は14億ユーロとなり、2023年度第2四半期から8.9%増加しました。国際事業が好調であったことから、債権者保険の保険料収入は2023年度第2四半期比で8.7%増加しました。死亡・障害保険の保険料収入は2023年度第2四半期比で9%増加しました（主に団体保険が牽引し、35.2%の大幅増）。2024年6月末時点の保険料収入は合計で27億ユーロとなり、2023年上半期に比べて7.5%増加しました。

資産運用（アムンディ）は、2024年第1四半期の資金流入が非常に良好でした。

アムンディの**運用資産**は2024年6月30日現在、前年同期比で9.9%増、四半期比で1.9%増の2兆1,560億ユーロと過去最高となりました。当四半期に運用資産が400億ユーロ増加したのは、166億ユーロのプラスの市場および為替効果、

²⁷ 連結範囲「生命保険フランス」

²⁸ 損害保険料収入には、2024年第2四半期にCATU（ポーランドの損害保険事業体）が2024年1月1日に遡及して初めて連結されることに伴う連結範囲変更の影響、損害保険料収入の伸びへの0.9%のプラスの影響（2023年第2四半期と2024年第2四半期のCATUを除いた保険料収入の5.4%増）、ポートフォリオの伸びへの2.0%のプラスの影響、すなわち31万件的契約の影響（2023年度第2四半期と2024年度第2四半期のCATUを除いた保険料収入は3.2%増）が含まれます。

²⁹ 連結範囲：フランス内外の損害保険

³⁰ 割引を含め、割引を除いた再保険料控除後のフランスのP&C（Pacifica）のコンバインドレシオは、保険料収入に対する（保険金+営業費用+手数料収入）。2024年上半期に関して算定しています。2024年上半期の割引の効果を除いた純コンバインドレシオは97.3%（前年比1.3パーセント・ポイント減）となりました。

Alpha Associates の統合（80 億ユーロ）、155 億ユーロの純資金流入によるものでした。

当四半期の純資金流入は、リスク回避的な環境にもかかわらず、アクティブ運用とパッシブ運用の双方における**中長期資産**³¹からの活発な資金流入（150 億ユーロ増）が牽引しました。アクティブ運用は引き続き、債券戦略への強い関心の恩恵を受けました。資金流入の勢いは**トレジャリー商品**³¹からの季節的な資金流出によって一部相殺され、毎年第 2 四半期には企業による配当支払いに連動した償還が見られます。最後に、**ジョイント・ベンチャー**は引き続き商業向けの勢いが堅調で、純資金流入は 116 億ユーロとなり、すべての国、とりわけインド（SBI MF は 94 億ユーロ増）、韓国、それに中国でのプラスの寄与を反映しました。

顧客セグメント別では、**リテール**の資金流入（2024 年第 2 四半期に 22 億ユーロ）は、パッシブ運用とトレジャリー商品、それに過去 2 四半期からはアクティブ運用を中心に、サードパーティ・ディストリビューターの高い伸び（54 億ユーロ）が牽引しました。しかし、フランスおよび国際ネットワークからの資金流入は他の低リスク貯蓄商品（規制対象貯蓄、フランスにおける従来の生命保険の魅力的なリターンの回復、イタリアの新規国債）での競争による影響を受けました。**機関投資家**セグメントも、従業員持株制度による従業員貯蓄、ユーロ建て契約における生命保険市場の好転による保険のマネジメント、そしてとりわけ、マルチ資産における新たな機関投資家向けマネジメントを伴う機関投資家およびソブリンなどで、多額の資金流入がありました。一方、トレジャリー商品では急激な季節的な資金流出がありました。

ウェルス・マネジメントでは、総運用資産（CA インドスエズ・ウェルス・マネジメントと LCL プライベート・バンキング）は 2024 年 6 月末現在で 2,690 億ユーロとなり、2024 年 3 月末から 36.6%増加し、2023 年 6 月末から 44.6%増加しました。インドスエズ・ウェルス・マネジメントの 2024 年 6 月末現在の運用資産は、市場効果（13 億ユーロ増）、純資金流入（12 億ユーロ増）、それに当四半期の Degroof Petercam の統合に伴う連結範囲変更の影響（692 億ユーロ増）により、2024 年 3 月末から 53.9%増（718 億ユーロ増）の 2,049 億ユーロ³²となりました。LCL のプライベート・バンキング部門の 2024 年 6 月末現在の総運用資産は、2024 年 3 月末から 3 億ユーロ（0.4%）増の 638 億ユーロとなりました。

アセット・ギャザリング部門の業績

2024 年第 2 四半期の AG の**収益**は 19 億 4,400 万ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期と比べて 12.2%増加しました。この増加は、資産運用、保険、ウェルス・マネジメントの 3 つの事業ラインすべてが好業績を上げたことによるものです。**費用**は 13.7%増加し、8 億 1,300 万ユーロとなりました。その結果、**コスト比率**は、2023 年度第 2 四半期と比べて 0.6 パーセント・ポイント上昇し、41.8%となりました。営業総利益は 11 億 3,100 万ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期と比べて 11.2%増加しました。税金は 14.8%増加して 2 億 3,800 万ユーロとなりました。AG の**純利益グループ帰属分**は、2023 年度第 2 四半期と比べて 8.9%増の 7 億 3,600 万ユーロでした。

AG の 2024 年上半期の**収益**は 37 億 3,300 万ユーロとなり、2023 年上半期と比べて 7.3%増加しました。この増加は、保険、資産運用、ウェルス・マネジメントの 3 つの事業ラインすべてが非常に高水準の収益を上げたことによるものです。SRF を除いた費用は、9.6%増加しました。その結果、SRF を除いたコスト比率は、2023 年上半期と比べて 0.9 パーセント・ポイント上昇し、42.0%となりました。営業総利益は 21 億 6,600 万ユーロとなり、2023 年上半期と比べて 6.1%増加しました。税金は 5.0%増加して 5 億 200 万ユーロとなりました。AG の**純利益グループ帰属分**は、2023 年上半期と比べて 5.7%増の 14 億 5,300 万ユーロでした。純利益グループ帰属分は 2023 年上半期から 2024 年上半期に、資産運用（7.1%増）と保険（9.0%増）では増加しましたが、ウェルス・マネジメント（38.8%減）では減少しました。

2024 年上半期に、アセット・ギャザリング部門は、クレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の 36%、コーポレート・センター部門を除いた基礎収益の 27%に寄与しました。

2024 年 6 月 30 日現在で同部門に配分された資本は 128 億ユーロで、この内訳は、保険が 107 億ユーロ、資産運用が 13 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 9 億ユーロでした。同部門のリスク・ウェイト資産は 555 億ユーロで、この内訳は、保険が 326 億ユーロ、資産運用が 138 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 91 億ユーロでした。

2024 年上半期の**基礎 RoNE**（調整株主資本利益率）は 26.9%でした。

³¹ ジョイント・ベンチャーを除く

³² 機関投資家顧客のカストディー資産を除く

保険事業の業績

2024 年度第 2 四半期の保険事業の収益は 7 億 7,400 万ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期に比べて 15.8%増加しました。保険事業の収益の内訳は、貯蓄・退職金保険が 4 億 7,600 万ユーロ³³、個人保障が 1 億 1,500 万ユーロ³⁴、損害保険が 7,500 万ユーロでした³⁵。この増収は、運用資産の伸びと力強い事業モメンタム、それに業績の上振れによるものでした。

契約上のサービスマージン（CSM）は、株式再評価のマイナスの影響（市場効果）により、237 億ユーロと 2023 年 12 月 31 日からやや減少しました（0.8%減）。2024 年上半期の新事業は CSM の配分よりも影響が大きく、2024 年上半期のストックの年率換算 CSM 配分係数は 8.7%でした。

当四半期の帰属不能の費用は 8,800 万ユーロで、2023 年度第 2 四半期から 17.7%増加しました。これは、2024 年 1 月 1 日に設定されたイタリアの保険会社の保証基金が帰属不能であること、また 2024 年 6 月 30 日の CATU（ポーランド）の連結によるものでした。営業総利益は 6 億 8,600 万ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期と比べて 15.6%増加しました。純利益グループ帰属分は、2023 年度第 2 四半期と比べて 14.5%増の 4 億 9,500 万ユーロでした。

2024 年上半期の保険事業からの収益は 14 億 9,600 万ユーロとなり、2023 年上半期と比べて 8.4%増加しました。営業総利益は 13 億 1,700 万ユーロとなり、2023 年上半期と比べて 7.7%増加しました。非帰属費用は 1 億 7,900 万ユーロ（14.6%増）となりました。コスト比率は 12.0%となり、中期経営計画で設定されている目標上限の 15%を下回りました。純利益グループ帰属分は、2023 年上半期比で 9.0%増の 9 億 8,900 万ユーロとなりました。

2024 年 6 月 30 日現在、クレディ・アグリコル・アシュアランスのソルベンシーレシオは 200%となり、その堅固さが改めて示されました。保険は、2024 年 6 月末におけるクレディ・アグリコル S.A.の主力事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の 24%に寄与し、また基礎収益の 11%に寄与しました。

³³ 葬儀保証を含む契約上のサービスマージン（CSM）とリスク調整（RA）の配分額

³⁴ CSM と RA の配分額

³⁵ 再保険費用控除後（業績を除く）

資産運用の業績

2024 年度第 2 四半期の資産運用事業の収益は 8 億 6,400 万ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期に比べて 7.5%増加しました。運用報酬が 2023 年度第 2 四半期比で 6.7%増加しましたが、これは、好調な事業活動とジョイント・ベンチャーを除く平均運用資産の増加（前年同期比 8.1%増）を反映しています。成功報酬は 2023 年度第 2 四半期比でほぼ横ばいでしたが、2024 年度第 2 四半期に結晶化の水準が高かったため、2024 年度第 1 四半期比では増加しました。アムンディ・テクノロジーの収益は 2023 年度第 2 四半期と比べて 10.1%増加しました。純金融収入は、短期金利上昇の好影響により、2023 年度第 2 四半期比で増加しました。営業費用は 4 億 7,100 万ユーロ（7.1%増）となりましたが、これは投資の加速と増収の変動報酬への影響を反映しています。乖離効果は当四半期、プラスとなりました。その結果、コスト比率は 54.5%となり、前年同期比でわずかに改善しました（0.2 パーセント・ポイント減）。営業総利益は 2023 年度第 2 四半期と比べて 8.0%増加しました。アムンディのアジアのジョイント・ベンチャーからの貢献で構成される持分法適用会社の寄与は、2023 年度第 2 四半期から 19.9%増加して 3,300 万ユーロとなりました。これはインドの SBI MF の寄与の大幅な拡大などが牽引しました。税金費用は 5.1%増の 9,500 万ユーロでした。全体として純利益グループ帰属分は、2023 年度第 2 四半期比 8.4%増の 2 億 1,800 万ユーロでした。

資産運用事業の総収益は 2024 年上半期、運用報酬の持続的な伸び、アムンディ・テクノロジーの収益（3,500 万ユーロ、21.7% 増）および純金融収入の急増を反映し、5.8%増となりました。しかし、成功報酬は減少しました。純運用報酬の伸びは、ジョイント・ベンチャーを除く平均運用資産の伸びをやや下回りました。これは、顧客のリスク回避を背景とした商品構成の悪化による利鞘の若干の低下を反映しています。SRF を除く営業費用は、5.7%増加しました。SRF を除いたコスト比率は 55.1%で、2023 年上半期と比較して安定しています。その結果、営業総利益は、2023 年上半期と比べて 6.3%増加しました。持分法適用会社の当期純利益は 24.6%増加しました。全体として、純利益グループ帰属分は、7.1%増加して 4 億 1,500 万ユーロとなりました。

資産運用は、2024 年上半期におけるクレディ・アグリコル S.A.の主力事業（コーポレート・センターを除く）の基礎純利益グループ帰属分の 10%に寄与し、また基礎収益の 12%に寄与しました。

2024 年 6 月 30 日時点で、資産運用事業部門に配分された資本は 13 億ユーロ、リスク・ウェイト資産は合計 138 億ユーロになりました。

ウェルス・マネジメントの業績³⁶

Degroof Petercam の買収の完了については、2024 年 6 月 3 日に過半数の 65%の株式の取得が完了しました。そのため、以下に記載の財務データには、Degroof Petercam の 1 か月間の収入が含まれています³⁷。株式公開買付の完了により、2024 年 7 月 26 日時点でインドスエズの Degroof Petercam 株は 78.7%に増加しました。

ウェルス・マネジメントの 2024 年度第 2 四半期の収益は 3 億 700 万ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期に比べて 17.3%増加しました³⁷。収益は 2024 年 6 月の Degroof Petercam の統合の影響の恩恵を受けました。この影響を除けば、収益を支えたのは好調な運用・取引手数料、手数料収入で、金利収入の減少を相殺しました。費用は合計 2 億 5,500 万ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期比で 26.6%増加しました。これは、2024 年 6 月の Degroof Petercam の統合の影響³⁷、2024 年度第 2 四半期の統合費用 500 万ユーロ、それに税金と不動産に関する 2023 年のベース効果によるものです³⁸。これらの影響の修正再表示後の費用の伸びは抑制され、2023 年度第 2 四半期比で 1.3%増となりました。その結果、2024 年度第 2 四半期のコスト比率は、2023 年度第 2 四半期と比べて 6.1 パーセント・ポイント上昇し、83.1%となりました。営業総利益は 5,200 万ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期と比べて 13.6%減少しました。2024 年第 2 四半期のその他資産の純利益はマイナス 1,200 万ユーロで、これは Degroof Petercam の買収費用に相当し、個別項目として再表示されています。純利益グループ帰属分は 2,400 万ユーロで、2023 年度第 2 四半期比で 44.9%減少しましたが、Degroof Petercam の統合・買収費用の修正再表示および税金および不動産に関する 2023 年のベース効果後では 5.8%増となりました³⁸。

2024 年上半期には、ウェルス・マネジメントの収益は 2023 年上半期比 9.2%増加し、特に 2024 年 6 月の Degroof Petercam の統合が寄与し、5 億 7,000 万ユーロに達しました。FRU を除いた費用は、2024 年 6 月の Degroof Petercam の統合の影響³⁷、統合費用、それに税金および不動産に関する 2023 年のベース効果³⁸により、16.1%増加しました。これらの影響の修正再表示後の費用の伸びは抑制され、2023 年上半期比で 3.1%増となりました。営業総利益は 12.0%減少し、1 億 200 万ユーロとなりました。2024 年上半期のその他資産の純利益はマイナス 2,000 万ユーロで、これは Degroof

³⁶インドスエズ・ウェルス・マネジメントの連結範囲

³⁷Degroof Petercam の 6 月のデータがウェルス・マネジメントの業績に含まれます。収益は 4,900 万ユーロ、費用は 3,500 万ユーロでした。

³⁸税金および不動産に関する 2023 年度第 2 四半期のベース効果は費用 1,050 万ユーロで、純利益グループ帰属分への影響は 840 万ユーロです。

Petercam の買収費用に相当し、個別項目として再表示されています。純利益グループ帰属分は 4,900 万ユーロで、2023 年上半期比で 38.8%減少しましたが、Degroof Petercam の統合・買収費用の修正再表示および 2023 年のベース効果後では 3.8%減となりました³⁸。

ウェルス・マネジメントは、2024 年 6 月末におけるクレディ・アグリコル S.A.の事業部門の基礎純利益グループ帰属分（コーポレート・センター部門を除く）の 2%に寄与し、基礎収益の 4%に寄与しました。

2024 年 6 月 30 日現在、ウェルス・マネジメントに配分された資本は 9 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は 91 億ユーロでした。

大口顧客部門の活動

法人営業及び投資銀行部門（CIB）は、2024 年度第 2 四半期も大幅な好業績となりました（第 2 四半期および半期では過去最高の収益）。**資産運用サービス事業**も当四半期、好調に推移しました。

CIB の第 2 四半期の基礎収益は、2 つの事業ラインの成長が牽引し、2023 年度第 2 四半期比 7.3%増の 16 億 6,400 万ユーロと大幅に増加しました。ファイナンス事業による収益は 2023 年度第 2 四半期比で 5.2%増の 8 億 1,700 万ユーロとなりました。主な原動力となったのは、国際貿易・取引銀行業務と法人組成およびテレコム業務の発展を牽引役とする商業銀行事業の好調な業績（2023 年度第 2 四半期比で 12.6%増）でした。資本市場及び投資銀行業務も、資本市場業務の好業績の継続（2023 年度第 2 四半期比 1.7%増）、また、投資銀行業務、特にストラクチャードエクイティと当四半期中の M&A 事業の回復により、2023 年度第 2 四半期比 9.4%増の 8 億 4,700 万ユーロの増収となりました。

よって、ファイナンス事業はシンジケート・ローンにおける主導的地位を確認しました（フランスで第 2 位³⁹、EMEA で第 2 位³⁹Erreur !Signet non défini.Erreur !Signet non défini.）。クレディ・アグリコル CIB は、債券発行における高い地位を再確認し（世界全体のすべてのユーロ建債で第 3 位³⁹³⁹）、ユーロ建てグリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナブルボンドで第 2 位となりました⁴⁰。2024 年第 2 四半期の規制上の VaR の平均は 1,010 万ユーロで、ポジションと金融市場の変動を反映して、2024 年第 1 四半期の 1,150 万ユーロから減少しました。慎重なリスク管理を反映した水準で推移しました。

さらに、2024 年度第 2 四半期には、RBC インベスター・サービスズ（現 CACEIS インベスター・サービスズ・バンク（ISB））への統合が、2024 年 5 月 31 日の CACEIS の法人の実質的合併と顧客ポートフォリオの移行開始により、引き続き進められます。留意事項として、ISB の統合費用は 2024 年、2024 年度第 2 四半期の 2,500 万ユーロ、2024 年上半期に計上される 4,500 万ユーロ（第 1 四半期に 2,000 万ユーロを計上）を含め、約 8,000 万ユーロから 1 億ユーロが計上されます。

2024 年度第 2 四半期は、ISB の統合と活発な顧客事業が、市場のマイナスの影響により同四半期に減速したものの、2024 年の運用資産の伸びを下支えしました。**カスタディ資産**は 2024 年 6 月末時点で、2024 年 3 月末比 1.0%減、2023 年 6 月末比 16.2%増の 4 兆 9,660 億ユーロとなりました。**管理資産**は当四半期、0.3%の微増、前年同期比では 50.4%の増加となり、2024 年 6 月末時点で 3 兆 4,260 億ユーロとなりました。

大口顧客部門の業績

2024 年度第 2 四半期には、法人営業及び投資銀行部門及び資産運用サービス部門の好調な業績により、大口顧客部門の表示収益は 22 億 2,300 万ユーロと記録的な水準に達し、2023 年度第 2 四半期比で 16.7%増加しました。同部門の当四半期の特異要因は、ファイナンス事業に 4,210 万ユーロの影響を及ぼしました。内訳は、DVA（FVA の発行体スプレッド部分と担保付き融資）が 3,700 万ユーロ、ローンブックのヘッジが 500 万ユーロでした。**営業費用**は、変動報酬と開発を支援するための IT 投資、それに ISB の連結範囲変更の影響（1 億 400 万ユーロ）により、2023 年第 2 四半期から増加しました（16.0%増）。また、ISB の統合費用 2,500 万ユーロを計上し、個別項目として修正再表示しています。その結果、同部門の**営業総利益**は 10 億 1,900 万ユーロとなり、2023 年第 2 四半期と比べて 17.2%増と大幅に増加しました。2024 年度第 2 四半期のこの事業部門のリスク関連費用は 3,900 万ユーロの純繰入となりました。これに対して 2023 年度第 2 四半期は 3,200 万ユーロの繰入でした。税引前の表示利益は 9 億 9,300 万ユーロとなり、当期中に大幅に増加しました（17.6%増）。税金費用は 2 億 4,800 万ユーロでした。最後に、2024 年度第 2 四半期の表示純利益グループ帰属分は 6 億 9,400 万ユーロとなりました。これに対し、2023 年度第 2 四半期の表示利益は 6 億 2,200 万ユーロでした。2024 年度第 2

³⁹ リフィニティブ

⁴⁰ ブルームバーグ

四半期の基礎純利益グループ帰属分は 6 億 7,700 万ユーロとなりました（2023 年度第 2 四半期は 6 億 3,300 万ユーロ）。

2024 年上半期には、大口顧客部門の収益は 44 億 8,900 万ユーロ（2023 年上半期比 13.5%増）と、過去最高を記録しました。SRF を除く営業費用は、主に人件費と IT 投資の増加に伴い、ISB の統合費用 4,500 万ユーロを含め、2023 年上半期と比べて 15.9%増の 25 億 100 万ユーロとなりました。従って、2024 年上半期の営業総利益は 19 億 8,800 万ユーロとなり、2023 年上半期から 33.8%増加しました。2024 年上半期のリスク関連費用は、500 万ユーロの純繰入となりました。これに対して、2023 年上半期は 6,800 万ユーロの純繰入でした。当部門の基礎純利益グループ帰属分への寄与は 14 億 1,600 万ユーロとなり、2023 年上半期と比べ 41.8%増と急増しました。2024 年上半期の基礎純利益グループ帰属分は 14 億 400 万ユーロとなりました（2023 年上半期は 10 億 3,300 万ユーロ）。

同部門は、2024 年 6 月末時点におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の 34%に寄与し、またコーポレート・センター部門を除いた基礎収益の 32%に寄与しています。

2024 年 6 月 30 日時点で、当部門に配分された資本は合計 136 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は 1,429 億ユーロでした。

2024 年 6 月末時点で、基礎 RoNE（調整株主資本利益率）は 20.7%になりました。

法人営業及び投資銀行部門の業績

2024 年度第 2 四半期、法人営業及び投資銀行部門の銀行業務の表示純利益は、全業務部門の好業績に牽引され、特に好調だった 2023 年度第 2 四半期比 11.2%増の 17 億 600 万ユーロと過去最高の業績となりました。法人営業及び投資銀行部門の当四半期の特殊要因は、4,210 万ユーロの影響を及ぼしました。内訳は、DVA（FVA の発行体スプレッド部分と担保付き融資）が 3,700 万ユーロ、ローンブックのヘッジが 500 万ユーロでした。営業費用は 3.9%増加し（SRF を除く）、8 億 3,900 万ユーロとなりました。これは、変動報酬と IT 投資によるものでした。営業総利益は 2023 年度第 2 四半期比で 19.3%増と大幅に増加し、8 億 6,700 万ユーロの高水準となりました。当四半期のコスト比率は、3.4 パーセント・ポイント減と大幅に改善して 49.2%となりました。リスク関連費用は 3,000 万ユーロの純繰入となり、2023 年度第 2 四半期比で横ばいとなりました。最後に、2024 年第 2 四半期の税引前利益は 8 億 4,100 万ユーロとなりました（2023 年度第 2 四半期は 6 億 9,700 万ユーロ）。税金費用は 2 億 900 万ユーロでした。これにより、2024 年度第 2 四半期の表示純利益グループ帰属分は 12.9%増と大幅に増加し、6 億 1,800 万ユーロとなりました。

2024 年上半期の銀行業務の表示純利益は 2023 年上半期と比べて 7.4%増の 34 億 6,400 万ユーロとなり、半期ベースで過去最高を記録しました。当上半期の特殊要因は、4,940 万ユーロのプラスの影響を及ぼしました。内訳は、DVA（FVA の発行体スプレッド部分と担保付き融資）に係る利益が 4,200 万ユーロ、ローンブックのヘッジに係る利益が 700 万ユーロでした。営業費用は 4.2%増（SRF を除く）となりました。これは主に変動報酬と事業ラインの発展を支援するための IT 投資によるものでした。その結果、営業総利益は 17 億 300 万ユーロと急増しました（2023 年上半期と比べて 34.7%増）。2024 年上半期のリスク関連費用は、700 万ユーロの純戻入れとなりました。これに対して、2023 年上半期は 6,500 万ユーロの純繰入でした。税金費用は活動の増加に伴い、38.9%増の 4 億 1,400 万ユーロとなりました。最後に、2024 年上半期の表示純利益グループ帰属分は同期間中に 44.3%増加し、12 億 6,900 万ユーロとなりました。2024 年上半期の基礎純利益グループ帰属分は 12 億 3,300 万ユーロとなりました（2023 年上半期は 9 億 1,400 万ユーロ）。

2024 年 6 月末のリスク・ウェイト資産は、2024 年 3 月末比で 48 億ユーロ増の 1,313 億ユーロとなりました。この増加は主に事業ラインの自律的成長によるものでした。

資産運用サービスの業績

2024 年度第 2 四半期の資産運用サービスの収益は、2023 年第 2 四半期比で 39.5%増加し、5 億 1,700 万ユーロとなりました。これには、ISB の統合に伴う連結範囲変更の影響 1 億 700 万ユーロが含まれます。この増収は、資産の増加に伴う高水準の手数料収入などによるものでした。**営業費用**は 58.2%（SRF を除く）増加し、3 億 6,500 万ユーロとなりました。これには、ISB による連結範囲変更の影響 1 億 400 万ユーロと、特殊要因として修正再表示された ISB の統合費用 2,500 万ユーロ（2023 年度第 2 四半期の統合費用は 630 万ユーロ）が含まれます。連結範囲変更の影響と統合費用を除くと、営業費用は 2023 年度第 2 四半期比 5.6%増となりました。その結果、2024 年度第 2 四半期の**営業総利益**は 1 億 5,200 万ユーロとなり、過去最高の伸び（6.8%増）となりました。その結果、**コスト比率**は、8.4 パーセント・ポイント増加し、70.6%（SRF を除く）となりました。**ISB の統合費用を除いたコスト比率**は 2023 年度第 2 四半期比 5.3 ポイント上昇し、65.9%（SRF を除く）となりました。また、当四半期には持分法適用会社からの所得 800 万ユーロも計上しました。**純利益**は 1 億 1,300 万ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期と比べて 3.3%増加しました。非支配持分 3,600 万ユーロ控除後の、当部門の**純利益グループ帰属分**への寄与は 2024 年度第 2 四半期に 7,700 万ユーロとなり、前年同期比で 2.5%増加しました。

2024 年上半期の表示収益は 2023 年上半期に比べて 40.3%増加しました。ISB の統合、好調な商業的モメンタム、期間中の利鞘の上昇傾向が追い風となりました。**SRF を除いた費用**は 58.1%増となり、2024 年上半期の 2 億 700 万ユーロの連結範囲変更の影響に加えて、ISB の事業買収に関連する 4,500 万ユーロの統合費用を含みます（2023 年上半期の統合費用は 950 万ユーロ）。これを受けて、**営業総利益**は 2023 年上半期と比べて 29%増と、大幅増加しました。**ISB の統合費用を除いたコスト比率**は 2023 年度第 2 四半期比 5.1 ポイント上昇し、67.8%となりました。その結果、**純利益**は 24.7%増加しました。2024 年上半期の**純利益グループ帰属分**に対する同部門全体の寄与は 1 億 4,800 万ユーロとなり、2023 年 6 月 30 日と比べて 24.0%増加しました。

専門金融サービス部門の活動

クレディ・アグリコル・パーソナル・ファイナンス&モビリティーズ（CAPFM）の商業組成は 2024 年度第 2 四半期に合計 120 億ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期に比べて 11.0%減少しました。中国の GAC Sofnico での減少が影響しました。しかし、2024 年度第 1 四半期と比べると 2.8%増加しました。四半期の新規組成件数に占める自動車ローン⁴¹の割合は当四半期、50.6%でした。組成の平均顧客向け金利は、2024 年度第 1 四半期から変動はありませんでした。2024 年 6 月末時点の CAPFM の**運用資産**は 1,158 億ユーロで、2023 年 6 月末比 8.2%増となりました。全事業（自動車事業で 13.9%増⁴²、LCL および地域銀行で 5.1%増、その他の事業体で 4.5%増）が牽引しました。最後に、2024 年 6 月末時点の**連結残高**は合計 686 億ユーロで、2023 年第 2 四半期比で 6.2%増加しました。

クレディ・アグリコル・リーシング&ファクタリング（CAL&F）の商業組成は、フランスの不動産リースおよび再生可能エネルギーへの融資に牽引され、2023 年度第 2 四半期比 38.6%増となりました。**機器リース**は、ポーランドをはじめとして良好な傾向が続きました。2024 年 6 月末時点の**リース残高**は、フランス国内と国外で前年比 8.5%増（フランス国内が 7.2%増、国外 13.9%増）の 198 億ユーロ（うちフランス国内が 157 億ユーロ、国外 41 億ユーロ）となりました。**ファクタリングの商業組成**は、市場の縮小により、2023 年度第 2 四半期比で 21.4%減少しました⁴³。2024 年 6 月末時点の**ファクタリング残高**は、ファクタリング収益の増加（前年同期比 5.3%増）により、2023 年 6 月末比 7.8%増の 322 億ユーロとなりました。

⁴¹ CA オートバンク、自動車関連のジョイント・ベンチャー、その他の事業体の自動車事業

⁴² CA オートバンクと自動車関連のジョイント・ベンチャー

⁴³ 第 2 四半期のファクタリング事業は前年同期比 2.6%減 - 出典：フランス金融会社協会（Association Française des Sociétés Financières）の専門機関の事業活動

専門金融サービス部門の業績

専門金融サービス部門の 2024 年度第 2 四半期の収益は、合計 8 億 8,900 万ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期比 23.5% 減となりましたが、モビリティ事業の再編に関連する 2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を除くと同 3.1%増でした。取引件数、為替レート、連結範囲変更の好影響⁴⁵などの恩恵を受けました。費用は 4 億 4,300 万ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期比 3.1%増、2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴と連結範囲変更の影響⁴⁵を除くと同 5.2%増となりました。コスト比率⁴⁶は、2023 年度第 2 四半期と比べて 2.1 パーセント・ポイント上昇し、49.8%となりました。営業総利益は 4 億 4,700 万ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期と比較して 39.2%減、2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を除くと 1.7% 減となりました。リスク関連費用は 2 億 1,100 万ユーロとなり、2024 年度第 2 四半期比では 30.8%減、2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を除くと 4.2%減となりました。当事業の純利益グループ帰属分は 1 億 8,700 万ユーロで、2023 年度第 2 四半期比 38.4%減、2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を除くと 14%増となりました。

2024 年上半期の専門金融サービス部門の収益は 2023 年上半期比で 5.4%減となりましたが、2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を除くと同 13.1%増となりました。これは、CAL&F の好調な業績（2023 年上半期比 8.6%増）と 2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を除いた CAPFM の収益の増加（2023 年上半期比 14.5%増）によるものでした。2023 年度第 2 四半期以降のモビリティ事業関連の戦略転換に関連する連結範囲変更の影響⁴⁹、特にクレディ・アグリコル・オートバンクの完全連結、欧州 6 か国における ALD 事業および LeasePlan 事業の連結、それに 2023 年度第 3 四半期の HiFlow の過半数の株式取得が恩恵となりました。SRF を除く費用は、2023 年上半期と比べて 12.0%増加しました。SRF と 2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を除いた費用は、連結範囲変更の影響⁴⁹の影響を含め、14.7%増加しました。連結範囲変更の影響⁴⁹を除くと、4.2%増となりました。コスト比率⁴⁶は、2023 年度第 2 四半期と比べて 8.0 パーセント・ポイント上昇し、51.7%となりました。2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を修正再表示すると、0.7 パーセント・ポイントの上昇となりました。リスク関連費用は 2023 年上半期比 7.2%減の 4 億 2,900 万ユーロとなりましたが、2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を除くと 13.5%増となりました。この増加には連結範囲変更の影響⁴⁹などが含まれます。持分法適用会社の寄与は 2023 年度第 2 四半期比で 30.1%減、クレディ・アグリコル・オートバンクの連結範囲変更の影響⁴⁹に関連する 2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を除くと同 38.7%減となりました。クレディ・アグリコル・オートバンクは 2023 年度第 2 四半期に完全連結されましたが、それまでは持分法が適用されていました。その結果、純利益グループ帰属分は、2023 年上半期と比べて 23.5%減の 3 億 3,000 万ユーロとなりました。2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を除いた純利益グループ帰属分は前年同期比 13.2%増加しました。

専門金融サービス部門は、2024 年度第 2 四半期におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の 8%、コーポレート・センター部門を除く基礎収益の 12%に寄与しました。

2024 年 6 月 30 日時点で、当部門に配分された資本は合計 68 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は 716 億ユーロでした。

2024 年上半期の基礎 RoNE（調整株主資本利益率）は 9.1%でした。

⁴⁴2023 年度第 2 四半期のモビリティ事業の再編に関連するベース効果：収益 2 億 9,900 万ユーロ、費用 1,800 万ユーロ、リスク関連費用 8,500 万ユーロ、持分法適用会社 1,200 万ユーロ、RNAA2,800 万ユーロ、純利益グループ帰属分 1 億 4,000 万ユーロ

⁴⁵欧州 6 か国における ALD 事業および LeasePlan 事業ならびに 2023 年度第 3 四半期の HiFlow の過半数の株式取得に関連する 2023 年度第 2 四半期比での連結範囲変更の影響：収益 2,400 万ユーロ、費用 1,000 万ユーロ

⁴⁶基礎コスト比率

消費者金融およびモビリティの業績

2024 年度第 2 四半期の CAPFM の収益は 6 億 9,500 万ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期比 29.1%減、2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を除くと同 2.0%増となりました。プラスの連結範囲変更の影響および数量効果⁴⁵（残高の増加）に支えられ、組成マージンはほぼ 2024 年度第 1 四半期並みとなりました。費用は 3 億 4,300 万ユーロで、2023 年度第 2 四半期と比べて 2.4%増加しました。2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を除き、また連結範囲変更の影響⁴⁵を除いた費用は 2023 年度第 2 四半期比で 5.2%増加しました。その結果、**営業総利益**は 3 億 5,200 万ユーロとなり、前年同期比 45.7%減、2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を除くと同 4.2%減となりました。**コスト比率**⁴⁶は 49.3%となり、2023 年度第 2 四半期に比べて 2.9 パーセント・ポイント改善しました。**リスク関連コスト**は 1 億 9,100 万ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期比 33.2%減、2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を除くと同 5.0%減となりました。したがって、**残高に対するリスク関連費用**は 2023 年度第 2 四半期に比べて 20 ベーシス・ポイント低下し、114 ベーシス・ポイント⁴⁷となりました。2024 年 6 月末時点の不良債権比率は 4.3%となり、2024 年 3 月末から 0.2 パーセント・ポイント上昇しましたが、不良債権引当率は 75.8%となり、2024 年 3 月末から 2.9 パーセント・ポイント低下しました。**持分法適用会社**の寄与は 2023 年度第 2 四半期から大幅に増加（2.2 倍）しましたが、2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を除くと 19.3%増となりました。その結果、2024 年度第 2 四半期の**純利益グループ帰属分**は 1 億 3,200 万ユーロとなり、前年同期比 49.7%減となりました。2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁴を除いた純利益グループ帰属分は前年同期比 7.8%増加しました。

2024 年上半期の CAPFM の収益は合計 13 億 6,500 万ユーロで、2023 年上半期比 8.5%減少しましたが、2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁸を除くと 14.5%増となりました。2023 年度第 2 四半期以降のモビリティ事業関連の戦略転換に関連する連結範囲変更の影響⁴⁹、特にクレディ・アグリコル・オートバンクの完全連結、欧州 6 개국における ALD 事業および LeasePlan 事業の連結、それに 2023 年度第 3 四半期の HiFlow の過半数の株式取得が恩恵となりました。**SRF を除く費用**は 6 億 9,800 万ユーロとなり、2023 年上半期と比べて 14.0%増加しました。SRF と 2023 年度第 2 四半期のベース効果等⁴⁸を除いた費用は、連結範囲変更の影響⁴⁹の影響を含め、2023 年上半期比 17.5%増となりました。連結範囲変更の影響⁴⁹を除くと、同 3.7%増となりました。その結果、**営業総利益**は 6 億 6,700 万ユーロとなり、前年同期比 23.0%減、2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁸を除くと同 14.0%増となりました。**コスト比率**⁵⁰は 51.1%となり、2023 年度第 2 四半期に比べて 10.1 パーセント・ポイント上昇しました。2023 年度第 2 四半期のベース効果を修正再表示すると、1.3 パーセント・ポイントの上昇となりました。**リスク関連費用**は 3 億 9,000 万ユーロとなり、2023 年上半期比 9.7%減となりましたが、2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁸を除くと 12.3%増となりました。増加は連結範囲変更の影響⁴⁹などが含まれています。**持分法適用会社**の寄与は 2023 年度第 2 四半期比で 28.4%減、クレディ・アグリコル・オートバンクの連結範囲変更の影響に関連する 2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁸を除くと同 37.1%減となりました。クレディ・アグリコル・オートバンクは 2023 年度第 2 四半期に完全連結されましたが、それまでは持分法が適用されていました。その結果、2024 年上半期の**純利益グループ帰属分**は 2 億 3,100 万ユーロとなり、前年同期比 35.6%減となりました。2023 年度第 2 四半期のベース効果⁴⁸を除いた純利益グループ帰属分は前年同期比 5.4%増加しました。

リースとファクタリングの実績

CAL&F の**総収益**は 1 億 9,400 万ユーロとなり、2023 年度第 1 四半期と比べて 7.7%増加しました。この増加の原動力となったのはすべて事業部門で、件数増加の好影響（ファクタリング収益および機器リース残高の増加）、ポーランドにおける為替レートの好影響が恩恵となりました。マージンは上昇傾向となりました。費用は 6.1%増に抑制され、**コスト比率**は、2023 年度第 2 四半期から 0.8 パーセント・ポイント改善し、51.4%となりました⁵⁰。**営業総利益**は 9.6%増の 9,400 万ユーロとなり、乖離効果は 1.6 パーセント・ポイントのプラスとなりました。**リスク関連費用**は合計 2,000 万ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期と比べて 4.6%増加しました。**残高に対するリスク関連費用**は、2023 年度第 2 四半期比横ばいの 21 ベーシス・ポイント⁴⁷となりました。その結果、**純利益グループ帰属分**は、2023 年度第 2 四半期に比べて 32.5%増加して 5,500 万ユーロとなりました。

2024 年上半期の収益は 3 億 7,100 万ユーロとなり、2023 年上半期と比べて 8.6%増加しました。**SRF を除いた費用**は、6.1%増加して 1 億 9,900 万ユーロになりました。**営業総利益**は 2023 年上半期から 24.0%増加し、1 億 7,200 万ユーロとなりました。**SRF を除いた基礎コスト比率**は、2023 年上半期と比べて 1.2 パーセント・ポイント改善され、53.6%となり

⁴⁷ 過去 4 四半期の期首の平均残高に対する直近 4 四半期のリスク関連費用の割合

⁴⁸ 2023 年度第 2 四半期のモビリティ事業の再編に関連するベース効果：収益 2 億 9,900 万ユーロ、費用 1,800 万ユーロ、リスク関連費用 8,500 万ユーロ、持分法適用会社 1,200 万ユーロ、RNAA2,800 万ユーロ、純利益グループ帰属分 1 億 4,000 万ユーロ

⁴⁹ 2023 年度第 2 四半期の CAAB の連結、欧州 6 개국における ALD 事業および LeasePlan 事業の連結、ならびに 2023 年度第 3 四半期の HiFlow の過半数の株式取得に関連する 2023 年上半期比での連結範囲変更の影響：収益 2 億 900 万ユーロ、費用 8,200 万ユーロ、リスク関連費用 3,600 万ユーロ

⁵⁰ 基礎コスト比率

ました。リスク関連費用は2023年上半期と比べて増加しました（27.6%増）。当部門の基礎純利益グループ帰属分への寄与は9,900万ユーロとなり、2023年上半期と比べて37.0%増加しました。

クレディ・アグリコル S.A. リテール・バンキング部門の活動

クレディ・アグリコル S.A. のリテール・バンキング部門の活動は当四半期も堅調で、顧客獲得は引き続き順調に進んでおり、保険契約を締結した顧客数も高水準を維持しました。フランスの住宅ローンの組成は安定し、企業向け貸付はやや増加しました。フランス以外の貸付は順調に増加しました。

フランスのリテール・バンキング部門の活動

2024 年度第 2 四半期には、新規顧客獲得数は7万2,000人、純顧客獲得数は6,000人となりました。自動車保険、マルチリスク住宅保険、健康保険、法的保険、すべての携帯電話保険または傷害保険におけるクロスセル・レートは、2023 年度第 2 四半期と比べて0.4パーセント・ポイント上昇し、2024年6月末には27.8%になりました。

2024 年度第 2 四半期のローン組成は60億ユーロとなり、前年同期比で15%減少しました。ローン組成は法人向けの組成が急増しましたが（37%増）、その他の組成は住宅ローンの組成を中心に減少しました（42%減）。住宅ローンの組成については、当四半期中に回復の兆しが見られました（2024年度第1四半期比18%増）。住宅ローンの組成率は3.80%⁵¹となり、2024年度第1四半期から低下しました（36ベース・ポイント減）。住宅ローンの残高率は2024年度第1四半期と比べて4ベース・ポイント改善しました。

貸出残高は当四半期に順調に推移し（2023年度第2四半期比で0.5%増）、2024年6月末で1,682億ユーロとなりました。これには、住宅ローン（0.8%増）、スモールビジネス向け貸付（1.2%増）、企業向け貸付（0.3%減）、消費者金融（1.6%減）が含まれます。当四半期中も貸出残高は横ばいで推移しました（2024年3月比0.1%増）。2024年6月末の顧客資産総額は2,518億ユーロとなり、前年同期比4.5%増となりましたが、2024年第1四半期からは比較の変動はありませんでした。定期預金残高はほぼ横ばいで（2024年6月末に2024年3月末比で0.6%増）、要求払預金は当四半期中に回復しました（1.3%増）。オフ・バランスシートの預金は、前年同期比でプラスの市場効果から恩恵を受けました。

イタリアのリテール・バンキング部門の活動

2024 年度第 2 四半期、CA イタリアの総顧客獲得数は4万8,000人となり（2023年度第2四半期比7%増）、顧客基盤は約19,000人増加しました。

CA イタリアの2024年6月末時点の貸出残高は610億ユーロ⁵²で、2023年6月末比で2.2%増加しました。これは、主に残高が4.4%増加したリテール市場によるものでした。ローン組成は、イタリア市場の低迷にもかかわらず、すべての市場における力強い勢いに牽引され、2023年度第2四半期比52.2%増と大幅に増加しました。⁵³特に、マーケティング戦略が住宅ローンの組成を39.8%押し上げました。ローン残高率は2024年度第1四半期並みで推移しました。

2024年6月末の顧客資産総額は1,167億ユーロで、2023年6月末と比べて3.1%増加しました。オン・バランスシートの預金は定期預金が原動力となり、前年比2.5%増、2024年第1四半期並みの高水準で順調に推移しています。資金調達コストは引き続き抑制されており、オフ・バランスシートの預金は市場効果と資金流入の増加の恩恵を受けて4.0%増加しました。

自動車、マルチリスク住宅保険、健康保険、法的保険、すべての携帯電話保険及び傷害保険におけるCAイタリアのクロスセル・レートは19.7%に上昇し、2023年度第2四半期と比べて1.8パーセント・ポイント上昇しました。

イタリアのクレディ・アグリコル・グループの活動⁵⁴

当社グループのイタリアにおける事業は、2024年上半期も成長を続けました。2024年6月末時点でサービスを提供した顧客数は600万人となり、イタリアにおける当グループの市場シェアは5%⁵⁵でした。

⁵¹2024 年度第 2 四半期の平均組成率

⁵²POCI 残高の控除後

⁵³出典：2024年7月のイタリア銀行協会（Abi）の月次見通し：すべてのローンについて、2024年6月前年比1.9%減、年初来1.2%減

⁵⁴2024年6月30日現在、この範囲はイタリアに存在するすべてのグループ事業体の集計に対応しています。CA イタリア、CAPFM（Agos、Leasys、CAオートバンク）、CAA（CA Vita、CACI、CA Assicurazioni）、アムンディ、クレディ・アグリコル CIB、CAIWM、CACEIS、CALEF

⁵⁵支店数

クレディ・アグリコル・イタリアの NPS は商業銀行のなかで最も高いものです。⁵⁶ 当社グループの事業ラインは、消費者金融で 2 位⁵⁷、資産運用で 3 位⁵⁸、生命保険バンカシュランスで 4 位⁵⁹ となりました。

貸出残高は、2024 年 6 月末時点で 1,010 億ユーロとなり、安定して推移しました（2023 年 12 月末比 1%増）。顧客資産総額は 2024 年 6 月末時点で 3,380 億ユーロに達しました（2023 年 12 月末時点と比べて 2%増）。

国際リテール・バンキング（イタリアを除く）の活動

イタリアを除く国際リテール・バンキングの 2024 年 6 月末時点の貸付残高は、2023 年 6 月末時点と比較して、現在の為替レートで 1.4%増加しました（為替変動の影響を除くと 5.6%増）。顧客資産は同期間に現在の為替レートで 1.4%増加しました（為替変動の影響を除くと 9.0%増）。

特にポーランドでは、預金獲得競争が激しくなるなか、2023 年 6 月末比で貸付残高は 6.4%増（為替変動の影響を除くと 3.4%増）、顧客資産は同期間で 8.6%増（為替変動の影響を除くと 5.5%増）となりました。ポーランドにおけるローン組成も堅調に推移し、2023 年度第 2 四半期と比較して現在の為替レートで 31.9%増加しました（為替変動の影響を除くと 25.4%増）。

エジプトでは、エジプト・ポンド安の影響により、ローン残高は 2023 年 6 月末から 2024 年 6 月末までに 12.4%減少しましたが、為替変動の影響を除くと 33.8%増加しました。同期間の資金流入は 26.1%減少しましたが、為替変動の影響を除くと 12.8%増と引き続き大幅に増加しました。

ポーランドとエジプトでは、2024 年 6 月 30 日現在、融資を上回る預金が 17 億ユーロあり、ウクライナを含めると 34 億ユーロに達しました。

また当四半期には、クレディ・デュ・マロックの残存株式 15%を売却しました。

フランスのリテール・バンキングの業績

2024 年第 2 四半期の LCL の収益は 9 億 7,900 万ユーロとなり、2023 年度第 2 四半期と比べて 2.2%増加しました。純金利マージンは 2023 年度第 2 四半期比 10.9%増となりました。ローンの段階的な価格改定とマクロヘッジのプラス効果から恩恵を受けた一方、プライベート・エクイティのポートフォリオの評価の上昇によるプラスの効果でやや相殺されたものの、顧客資源および市場借り換えコストの上昇の継続に苦戦しました。2023 年度第 2 四半期比では、ベース効果⁶⁰を除いた手数料収入は横ばいとなりました。費用は同 6.7%増の 5 億 9,100 万ユーロとなりました。一度限りの税務に関する影響と退職給付に関するベース効果を修正再表示した場合、経常費用は同 4.4%増となりました。SRF を除いたコスト比率は、2.6 パーセント・ポイント増の 60.3%と低水準で推移しました。

営業総利益は 5.4%減少し、3 億 8,900 万ユーロとなりました。

リスク関連費用は 38%増の 9,500 万ユーロとなりました（内訳は正常債権に対するリスク関連費用 400 万ユーロ、確認済みリスク関連費用 8,900 万ユーロ、その他のリスク関連費用 200 万ユーロ）。この増加は、特定の企業グループなどによるものです。

⁵⁶ ネット・プロモーター・スコア 出典：2023 年 10 月の Doxa の調査

⁵⁷ Assofin の発表、2024 年 4 月 30 日（クレジットカードを除く）

⁵⁸ 運用資産 出典：Assogestioni（2024 年 5 月 31 日）

⁵⁹ 組成。出典：IAMA（2024 年 4 月 30 日）

⁶⁰ 「口座管理および決済手段」に含まれる、2023 年度第 2 四半期の小切手画像処理の罰金の戻し入れ 2,100 万ユーロ

それでも、残高に対するリスク関連費用は抑制され、22 ベーシス・ポイントとなりました。2024年6月末時点の不良債権引当率は60.8%となり、2024年3月末時点に比べて0.9パーセント・ポイント上昇しました。2024年6月末の不良債権比率は2.0%となり、2024年3月末並みとなりました（0.1パーセント・ポイント上昇）。この結果、純利益グループ帰属分は、2024年度第2四半期比で14.3%減となりました。

2024年上半期のLCLの収益は19億3,300万ユーロとなり、2023年上半期と比べて2.0%増加しました。純金利マージンは、借り換えおよび資金調達コストの上昇（第2四半期にはプライベート・エクイティのポートフォリオの評価上昇の影響も見られました）を背景に、ローンの段階的な価格改定やマクロヘッジのプラスの影響により、上昇しました（5.3%増）。ベース効果⁶⁰を除いた手数料収入は、保険と決済手段を中心に、2023年上半期比で1.1%増加しました。SRFを除いた費用は当四半期に3.5%増加し（一度限りの税務に関する影響と退職給付に関するベース効果を除くと2.4%増）、コスト比率は61.7%（SRFを除くと2023年上半期比0.9パーセント・ポイント増）と引き続き抑制されました。営業総利益は6%増加しましたが、リスク関連費用は58.5%増加しました。全体として、当部門の純利益グループ帰属分への寄与は3.7%減少し、3億9,300万ユーロとなりました。

最終的に、当部門は、2024年上半期におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の**基礎純利益グループ帰属分**の10%に寄与し、またコーポレート・センター部門を除いた**基礎収益**の14%に寄与しました。

2024年6月30日時点で、当部門に**配分された資本**は合計51億ユーロで、**リスク・ウェイト資産**は537億ユーロでした。2024年上半期のLCLの基礎調整株主資本利益率（RoNE）は、14.4%でした。

国際リテール・バンキングの業績⁶¹

2024年第2四半期には、**国際リテール・バンキング部門**の収益は1億270万ユーロとなり、2023年度第2四半期と比べて4.6%増加（為替変動の影響を除くと7.4%増加）しました。第2四半期のイタリアの預金保証基金への5,800万ユーロの拠出を考慮した**営業費用**は5億5,500万ユーロとなり、前年同期比10.3%増（為替変動の影響を除くと同11%増）となりました。拠出の影響を修正再表示した場合の営業費用は引き続き抑制されました。その結果、**営業総利益**は4億7,200万ユーロとなり、第2四半期に1.4%減少しました（為替変動の影響を除くと3.0%増加）。**リスク関連費用**は7,200万ユーロとなり、2023年度第2四半期と比べて42.9%減少しました（為替変動の影響を除くと42.6%減）。

2024年度第2四半期の**CA イタリア、CA エジプト、CA ポーランド、CA ウクライナ**の全体の純利益グループ帰属分は、15.6%増（為替変動の影響を除くと22.0%増）の2億2,800万ユーロとなりました。

2024年上半期の国際リテール・バンキング部門の収益は6.9%増の20億8,500万ユーロ（為替変動の影響を除くと1.9%増）でした。**SRFとDGS**（イタリアの預金保証基金）を除く**費用**は10億200万ユーロとなり、2023年上半期と比べて1.5%増加しました。**営業総利益**は10億2,400万ユーロとなり、10.8%増加しました（為替変動の影響を除くと3.7%増）。**リスク関連費用**は1億5,400万ユーロとなり、2023年上半期と比べて36.0%減少しました（為替変動の影響を除くと14.9%減）。全体として、**国際リテール・バンキングの純利益グループ帰属分**は、2023年上半期の3億7,500万ユーロから、4億8,500万ユーロとなりました。

国際リテール・バンキング部門では、2024年上半期に、クレディ・アグリコル S.A.の事業部門（コーポレート・センターを除く）の**基礎純利益グループ帰属分**の12%、コーポレート・センターを除いた**基礎収益**の15%に寄与しました。

2024年6月30日現在、国際リテール・バンキング部門に**配分された資本**は44億ユーロで、**リスク・ウェイト資産**は462億ユーロでした。

⁶¹2024年6月30日時点、この範囲にはCA イタリア、CA Polska、CA エジプト、CA ウクライナの事業体が含まれません。

イタリアの業績

2024年第2四半期のクレディ・アグリコル・イタリアの収益は、2023年第2四半期と比べて3.3%増加し、7億8,400万ユーロとなりました。純金利マージンは安定し、2023年度第2四半期から2024年度第2四半期に0.8%の微増、2024年度第1四半期以降は1.8%増となりました。手数料収入は、オフ・バランスシートの預金の影響とローン組成の増加傾向から恩恵を受け、2023年度第2四半期比で9%増加しました。営業費用は、2023年度第4四半期に認識されていたイタリアの預金保証基金への拠出金（5,800万ユーロ相当）を第2四半期に認識したことによる影響を受けました。この影響を除くと、当四半期の費用は合計3億8,100万ユーロとなり、2023年度第2四半期比で4.0%減少しました。営業総利益は2023年度第2四半期と比べて4.8%減少しました。

2024年度第2四半期のリスク関連費用は2023年度第2四半期比30.8%減の6,100万ユーロとなりました。これは確認済みリスクに対する引当にほぼ相当します。残高に対するリスク関連費用⁶²は、2024年第1四半期比で5ベース・ポイント低下し、50ベース・ポイントとなりました。不良債権比率は3.2%と、2024年度第1四半期比で改善し、不良債権引当率は72.4%となりました（2024年度第1四半期から0.9パーセント・ポイント上昇）。これにより、CAイタリアの純利益グループ帰属分は1億5,300万ユーロとなり、2023年度第2四半期比2.0%増となりました（2024年度第2四半期に計上されたDGSの影響の修正再表示後では22.2%増）。

2024年上半期には、クレディ・アグリコル・イタリアの収益は2.5%増の15億5,900万ユーロとなりました。SRFとDGSを除いた費用は7億6,300万ユーロと抑制され、2023年上半期比0.7%減の微減となりました。これにより、営業総利益は7億3,800万ユーロとなり、2023年上半期と比べて3.7%増加しました。リスク関連費用は、2023年上半期から18.0%減少し、1億2,300万ユーロとなりました。この結果、CAイタリアの純利益グループ帰属分は3億3,300万ユーロとなり、2023年上半期と比べて7.5%増加しました。

2024年6月30日時点のCAイタリアの基礎RoNE（調整株主資本利益率）は22.6%となりました。

イタリアのクレディ・アグリコル・グループの業績⁶³

2024年上半期には、イタリアの事業体の基礎純利益グループ帰属分は6億5,900万ユーロとなり、2023年上半期と比べて12%増加しました。これは、リテール・バンキング部門、アセット・ギャザリング部門、大口顧客部門を中心とする各事業部門の勢いの継続を反映しています。事業部門別の内訳は、リテール・バンキング部門（50%）、専門金融サービス部門（19%）、アセット・ギャザリングおよび保険部門（21%）、大口顧客部門（10%）となっています。最後に、2024年上半期のクレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分に対するイタリアの寄与は16%となりました。

⁶² ローリング4四半期ベース。

⁶³ 2024年6月30日現在、この範囲はイタリアに存在するすべてのグループ事業体の集計に対応しています。CA イタリア、CAPFM (Agos, Leasys, CA オートバンク)、CAA (CA Vita, CACI, CA Assicurazioni)、アムンディ、クレディ・アグリコル CIB、CAIWM、CACEIS、CALEF

国際リテール・バンキング（イタリアを除く）の業績

2024年度第2四半期には、イタリアを除く国際リテール・バンキング部門の収益は2億4,300万ユーロとなり、2023年度第2四半期と比べて9.2%増加（為替変動の影響を除くと23.6%増加）しました。2023年度第2四半期のポーランドでの収益は、純金利マージンと手数料収入の大幅な上昇傾向により、27.1%増加（為替変動の影響を除くと20.9%増加）しました。エジプトでの収益は、為替レートの変動（エジプト・ポンド安）により減少（2023年度第2四半期比13.6%減）しましたが、為替変動の影響を除くと非常に好調（41.9%増）でした。利鞘が急増し、為替収益が非常に好調だったことが恩恵となりました。イタリアを除く国際リテール・バンキング部門の営業費用は1億1,600万ユーロとなり、2023年度第2四半期と比べて9.0%増加（為替変動の影響を除くと14.0%増加）しました。営業総利益は1億2,700万ユーロとなり、2023年第2四半期比で9.3%増加しました（為替変動の影響を除くと34.2%増）。リスク関連費用は1,100万ユーロとなり、同71.1%減少しました（為替変動の影響を除くと70.5%減）。さらに、2024年6月末時点で、貸付残高の不良債権引当率はポーランドで123%、エジプトで141%と高水準にとどまっています。ウクライナでは、国内の不良債権引当率は引き続き慎重な水準（321%）となっています。全体では、イタリアを除く国際リテール・バンキング部門は純利益グループ帰属分に7,500万ユーロ寄与し、2023年度第2四半期と比べて58.9%増加しました。その他IRB（CAイタリアを除く）の基礎RoNE（調整株主資本利益率）は、2024年6月30日時点で41.0%となりました。

2024年上半期には、イタリアを除く国際リテール・バンキング部門の収益は5億2,500万ユーロとなり、純利鞘の拡大により2023年度第2四半期と比べて22.1%増加（為替変動の影響を除くと30.8%増加）しました。SRFを除く営業費用は2億3,900万ユーロとなり、2024年上半期と比べて9.7%増加しました（為替変動の影響を除くと10.5%増）。2024年6月末時点のコスト比率は45.6%となりました（2023年6月末時点のSRFを除くコスト比率から5.1ポイント改善）。大幅な増収により、営業総利益は2億8,600万ユーロとなり、2024年上半期と比べて34.8%増加しました（為替変動の影響を除くと54.7%増）。リスク関連費用は3,100万ユーロとなり、2024年上半期と比べて65.4%減少しました（為替変動の影響を除くと64.8%減）。全体では、イタリアを除く国際リテール・バンキング部門は純利益グループ帰属分に1億5,200万ユーロ寄与しました。

2024年6月30日時点で、リテール・バンキング事業部門全体では、クレディ・アグリコルS.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の22%、コーポレート・センター部門を除く基礎収益の29%に寄与しました。

2024年6月30日現在、当部門の資本は95億ユーロ、リスク・ウェイト資産は1,000億ユーロでした。

コーポレート・センターの業績

2024年度第2四半期のコーポレート・センター部門の基礎純利益グループ帰属分はマイナス2億3,800万ユーロとなり、2023年度第2四半期から2億2,200万ユーロ減少しました。コーポレート・センター部門のマイナス寄与は、「構造的」寄与（マイナス2億4,500万ユーロ）とその他の項目（700万ユーロ）に区別して分析することができます。「構造的」部分の寄与（マイナス2億4,500万ユーロ）は2023年第2四半期と比べて1億3,800万ユーロ減少し、その内訳は次の3事業に分けられます。

- 親会社クレディ・アグリコルS.A.のコーポレート・センターの事業と機能。2024年第2四半期の寄与はマイナス3億3,200万ユーロで、7,100万ユーロ減少しました。これには、プロジェクト関連費用および非経常的な税金費用の増加が含まれます。
- CACIF（未公開株式）、CAイモビリエ、CATE、BforBank（持分法適用）など、事業ラインに含まれない事業。2024年度第2四半期の寄与は7,800万ユーロで、2023年度第2四半期比で6,900万ユーロ減少しました。これには、Banco BPMの株式評価の悪影響が含まれますが、配当金の増加により一部相殺されました（2つの影響を合計するとマイナス7,100万ユーロ）。
- グループ支援機能。当四半期の寄与は900万ユーロでした（2023年度第2四半期比で100万ユーロ増加）。

「その他の項目」の寄与は、2023年度第2四半期に認識された小切手画像処理の罰金に関する引当金の戻し入れに関連するベース効果（4,200万ユーロの減少）およびOIS/BORの変動により、2023年度第2四半期比で8,400万ユーロ減少しました。

クレディ・アグリコル全体での保険事業の連結に伴う「内部マージン」効果は、コーポレート・センターを通じて計上されました。内部マージンの影響は当四半期、収益で-2億1,700万ユーロ、経費で+2億1,700万ユーロでした。

2024 年上半期のコーポレート・センター部門による基礎純利益グループ帰属分はマイナス 3 億 4,500 万ユーロとなり、2023 年上半期と比べ 2,500 万ユーロ減少しました。2024 年上半期中、同部門の構造的部分の寄与はマイナス 3 億 5,100 万ユーロ、他の項目の寄与は 600 万ユーロとなりました。

「構造的」部分の寄与は、2023 年上半期と比べて 1 億 3,600 万ユーロ増加し、その内訳は、以下の 3 つの活動に分けられます。

- 親会社クレディ・アグリコル S.A.のコーポレート・センターの事業と機能。2024 年上半期の寄与はマイナス 6 億 2,700 万ユーロで、2023 年上半期と比べて 2,100 万ユーロ増加しました。
- クレディ・アグリコル CIF（プライベート・エクイティ）、CA イモビリエ、BforBank など、中核事業に付随しない事業ライン。これらの事業ラインの寄与は 2024 年上半期にプラス 2 億 6,200 万ユーロとなり、SRF 積立期間（2023 年上半期は 8,400 万ユーロ）の終了などにより、2023 年上半期（プラス 1 億 1,100 万ユーロ）と比べて増加しました。
- グループ支援機能。2024 年上半期の寄与は、2023 年上半期比 400 万ユーロ増の 1,300 万ユーロとなりました。

「その他の項目」の寄与は 2023 年上半期と比べて 1 億 6,100 万ユーロ減少しました。

2024 年 6 月 30 日現在、リスク・ウェイト資産は 292 億ユーロでした。

財務の健全性

クレディ・アグリコル・グループ

2024 年 6 月 30 日時点で、クレディ・アグリコル・グループの段階適用の普通株式等 Tier 1 (CET1) レシオは 17.3%となり、2024 年 3 月末から 0.2 パーセント・ポイント低下しました。この結果、クレディ・アグリコル・グループは、CET1 レシオの水準と SREP 要件 9.8%との間で 7.6 パーセント・ポイントという大きなバッファーを上げました。全面適用ベースの CET1 レシオは 17.2%でした。

2024 年度第 2 四半期中の結果は以下のとおりです。

- 当四半期の CET1 レシオは、**留保利益**により、25 ベーシス・ポイント改善の恩恵を受けました。
- **事業ラインの内部的成長**に関連するリスク・ウェイト資産の変動は、クレディ・アグリコル・グループの CET 1 レシオに-18 ベーシスポイントの影響を与えました（以下を参照）。
- **M&A 取引**に関連する変動は、Degroof Petercam の過半数株式の取得（-21 ベーシス・ポイント）および Alpha Associates の資本の全額取得（-3 ベーシス・ポイント）の影響などでした。

2024 年 6 月末の段階導入の Tier 1 レシオは 18.5%、段階導入の総自己資本比率は 21.3%となりました。

段階導入のレバレッジ・レシオは 5.5%で、2024 年 3 月末比で安定していますが、規制要件である 3.5%を大きく上回っています。

クレディ・アグリコル・グループの**リスク・ウェイト資産**は、2024 年 3 月 31 日と比べ、99 億ユーロ増加して 6,280 億ユーロになりました。この変動は次のように事業ライン別に分類できます。リテール・バンキングが 38 億ユーロ増、アセット・ギャザリングが 2 億ユーロ減（保険の残余配当支払いを含む）、専門金融サービスが 12 億ユーロ増、大口顧客が 33 億ユーロ増、コーポレートセンターが 18 億ユーロ増。

最大分配可能額（MDA 及び L-MDA）トリガー閾値

バーゼル規則を EU 法に置き換えることで（CRD）、配当、AT1 債券、変動報酬に適用される分配の抑制メカニズムが導入されました。最大分配可能額（MDA。銀行が分配に割り当てることができる最大額）の原則は、分配が総合資本バッファー要件を順守していないとなった場合に分配に制限を設けることを狙いとしています。

MDA トリガーまでの距離は、CET1 資本、Tier 1 資本、及び資本総額についての SREP 要件までのそれぞれの距離のうち最も短いものです。

クレディ・アグリコル・グループは、2024 年 6 月 30 日時点で **MDA トリガーを 690 ベーシス・ポイント**（CET1 資本で 430 億ユーロ）上回るバッファーとなりました。

レバレッジ・レシオ・バッファーの要件に従わない場合、分配の制限と最大分配可能額（L-MDA）の計算が行われます。

クレディ・アグリコル・グループは、2024 年 6 月 30 日時点で **L-MDA トリガーを 199 ベーシス・ポイント**（Tier 1 資本で 420 億ユーロ）上回るバッファーとなりました。クレディ・アグリコル・グループのレベルでは、L-MDA トリガーまでの距離で分配制限までの距離が決まります。

クレディ・アグリコル S.A.は、2024 年 6 月 30 日時点で **MDA トリガーを 298 ベーシス・ポイント**（CET1 資本で 120 億ユーロ）上回るバッファーとなりました。クレディ・アグリコル S.A.は L-MDA 要件の対象外です。

TLAC

クレディ・アグリコル・グループは、常に以下の TLAC レシオ要件に従う必要があります。

- リスク・ウェイト資産 (RWA) の 18%を超える TLAC レシオと、EU 指令 CRD5 に従った総合資本バッファー要件 (クレディ・アグリコル・グループの場合は 2.5%の資本保全バッファー、1%の G-SIB バッファー、及び 2024 年 6 月 30 日に 0.77%に設定されたカウンターシクリカル・バッファー)。総合資本バッファー要件を考慮すると、クレディ・アグリコル・グループは、22.3%超の TLAC レシオに従う必要があります。
- レバレッジ・レシオ・エクスポージャー (LRE) の 6.75%超となる TLAC レシオ。

クレディ・アグリコル・グループの 2025 年の目標は、適格優先シニア債を除き、TLAC レシオを RWA の 26%以上に維持することです。

2024 年 6 月 30 日時点のクレディ・アグリコル・グループの TLAC レシオは、リスク・ウェイト資産の 27.1%及びレバレッジ・レシオ・エクスポージャーの 8.0% (適格優先シニア債を除く) と⁶⁴、要件を大きく上回りました。リスク・ウェイト資産の比率として表される TLAC レシオは、当期中の自己資本・適格資産項目を越すリスク・ウェイト資産の増加に伴い、当四半期で 20 ベーシス・ポイント増加しました。レバレッジ・エクスポージャーの比率 (LRE) として表される TLAC レシオは、2024 年 3 月と比べて安定的に推移しました。

よって、当グループの適格優先シニア債を除く TLAC レシオは、RWA の 22.3%という現在の要件を 480 ベーシス・ポイント (300 億ユーロ) 上回っています。

2024 年 6 月末時点で、12 億 5,000 万ユーロの AT1 に加えて、57 億ユーロ相当が市場で発行されています (非優先シニア債及びティア 2 債券)。TLAC レシオの計算で考慮されたクレディ・アグリコル・グループの非優先シニア債の金額は、310 億ユーロでした。

MREL

要求される最低水準は、破綻処理当局の決定によって定められ、各金融機関に通知され、その後は定期的に改訂されます。2024 年 6 月 30 日時点で、クレディ・アグリコル・グループは、以下の MREL 最低合計要件を満たす必要がありません：

- 22.01%の RWA と、EU 指令 CRD5 に従った総合資本バッファー要件 (クレディ・アグリコル・グループの場合は 2.5%の資本保全バッファー、1%の G-SIB バッファー、及び 2024 年 6 月 30 日に 0.77%に設定されたカウンターシクリカル・バッファー)。総合資本バッファー要件を考慮すると、クレディ・アグリコル・グループは、26.3%超の合計 MREL レシオを満たす必要があります。
- LRE の 6.25%。

2024 年 6 月 30 日時点のクレディ・アグリコル・グループの MREL レシオは、リスク・ウェイト資産の 32.8%及びレバレッジ・エクスポージャーの 9.8%と、MREL 要件を大きく上回りました。

追加的な劣後要件 (「劣後 MREL」) も破綻処理当局により決定され、RWA と LRE の比率で表されます。2024 年 6 月 30 日現在、クレディ・アグリコル・グループの劣後 MREL は以下の通りです：

- 18.25%の RWA に加えて、複合的な資本バッファー要件。総合資本バッファー要件を考慮すると、クレディ・アグリコル・グループは、22.5%超の劣後 MREL レシオを満たす必要があります。
- レバレッジ・エクスポージャーの 6.25%

2024 年 6 月 30 日時点のクレディ・アグリコル・グループの劣後 MREL レシオは、リスク・ウェイト資産の 27.1%及びレバレッジ・エクスポージャーの 8.0%と、MREL 要件を大きく上回りました。

MREL 要件に関連する最大分配可能額 (M-MDA) トリガーまでの距離は、RWA で表される MREL、劣後 MREL 及び TLAC 要件までのそれぞれの距離のうち最も短いものです。

2024 年 6 月 30 日時点で、クレディ・アグリコル・グループは M-MDA トリガーを 460 ベーシス・ポイント上回るバッファー (CET1 資本で 290 億ユーロ) となりました。M-MDA トリガーまでの距離は、劣後 MREL 比率と対応要件との間の距離に相当します。

⁶⁴ クレディ・アグリコル・グループは、年次の破綻処理可能性評価の一環として、自己資本規制規則 (CRR) 第 72b 条 3 項が認めている、2024 年の TLAC 規制の遵守に優先シニア債を使用する可能性を放棄することを選択しました。

クレディ・アグリコル S.A.

2024 年 6 月 30 日時点で、クレディ・アグリコル S.A.のソルベンシーレシオは中期計画目標を上回っており、段階適用の**普通株式 Tier 1 (CET1) レシオは 11.6%**となり、2024 年 3 月末と比べて 0.2 パーセント・ポイント低下しました。この結果、クレディ・アグリコル S.A.は、CET1 レシオの水準と 8.6%という SREP 要件の間で 3 パーセント・ポイントという十分なバッファを達成しました。全面適用ベースの CET1 レシオは 11.5%でした。

2024 年度第 2 四半期中の結果は以下のとおりです。

- 当四半期の CET1 レシオは、**留保利益**に関連する 22 ベーシス・ポイント改善の恩恵を受けました。この影響は、AT1 債券利息の控除後（プラス 44 ベーシス・ポイントの影響）及び利益の 50%分配の控除後（すなわち 2024 年度第 2 四半期の 1 株当たり 0.29 ユーロの配当準備金（マイナス 22 ベーシス・ポイントの影響））の純利益グループ帰属分に対応します。
- 事業ラインの自律的成長に関連する**リスク・ウェイト資産**の変動は CET1 レシオにマイナス 12 ベーシス・ポイントの影響を与えました。内訳として、保険事業ライン（当四半期の残余配当の支払いなど）がプラス 5 ベーシス・ポイント、その他の事業ラインはマイナス 17 ベーシス・ポイントの寄与しました。
- **M&A 取引**に関連する変動は、Degroof Petercam の過半数株式の取得（-28 ベーシス・ポイント）および Alpha Associates の資本の全額取得（-5 ベーシス・ポイント）の影響などでした。

2024 年 6 月末時点で、段階適用の**レバレッジ比率**は 3.8%となり、2024 年 3 月末と比べて 0.1 パーセント・ポイント低下し、規制要件である 3%を上回っています。

当四半期末の段階導入の**Tier 1 レシオ**は 13.4%、段階導入の総自己資本比率は 17.6%となりました。

2024 年 6 月 30 日時点で、クレディ・アグリコル S.A.の**リスク・ウェイト資産**は 3,990 億ユーロとなり、2024 年 3 月 31 日と比べて 65 億ユーロ増加しました。この変動は次のように事業ライン別に分類できます。

- アセット・ギャザリング部門は、残余配当の支払いに関連した保険部門の RWA の 27 億ユーロ減や 2024 年度第 2 四半期の純利益を含め、3 億ユーロの減少となりました。Degroof Petercam の統合は当四半期の RWA に 26 億ユーロ寄与しました。
- 専門金融サービスでは、消費者金融の成長により 12 億ユーロ増加しました。
- 大口顧客部門では、クレディ・アグリコル CIB の 48 億ユーロの増加、CACEIS の 16 億ユーロの減少を含め、リスク・ウェイト資産が前四半期比 33 億ユーロ増加しました。
- リテール・バンキング部門とコーポレート・センター部門のリスク・ウェイト資産は、それぞれ 13 億ユーロと 10 億ユーロ増加しました。

流動性と資金調達

流動性は、クレディ・アグリコル・グループのレベルで測定されます。

当グループの流動性ポジションについてわかりやすく、適切で、監査可能な情報を提供するため、バンキング部門のキャッシュ・バランスシートの安定した余剰金を四半期毎に計算します。

バンキング部門のキャッシュ・バランスシートは、当グループの IFRS 財務諸表から作成されます。これは、当グループの IFRS 財務諸表とキャッシュ・バランスシートの各セクションの間のマッピング・テーブルの定義に基づいており、その定義は市場で一般に受け入れられています。これはバンキング部門の範囲に関係するものであり、保険事業はそれぞれの独自の規制上の制約に従って管理されます。

キャッシュ・バランスシートの各セクションでの IFRS 財務諸表の分類に加えて、相殺計算が行われます。これは、流動性リスクの点で対称的な影響を及ぼす特定の資産と負債に関係します。繰延税金、公正価額の影響、一般減損、空売り取引、及び他の資産と負債については、2024 年 6 月末時点で総額 490 億ユーロの相殺が行われました。同様に、1,540 億ユーロのレポ／リバース・レポについては、これらの残高は互いに相殺される証券貸借業務を実施する証券デスクの活動を反映するため、除外されています。キャッシュ・バランスシートを確立するために算出された、2024 年 6 月末現在で 1,870 億ユーロに上る相殺は、デリバティブ、マージンコール、調整／清算／連絡勘定のほか、法人営業及び投資銀行部門 (CIB) が保有する非流動証券に関し、「顧客関連取引資産」に含まれています。

キャッシュ・バランスシートを作成するために預金供託公庫に集約された預金は相殺されない点にご注意ください。集約された預金額 (2024 年 6 月末時点で 1,030 億ユーロ) は、「顧客関連取引資産」の科目の資産と「顧客関連資金」の科目の負債に記載されます。

最終段階では、他の修正再表示項目は、経済的観点から別の科目に関係する場合は、会計基準が 1 つのセクションに割り当てている残高に再度割り当てられます。そのような形で、バンキング・ネットワークを通じて発行されたシニア債と欧州投資銀行、預金供託公庫、及び顧客ローンの裏付けのある同タイプのリファイナンス取引による資金調達については、会計基準が「中長期市場資金」と分類する場合は、「顧客関連資金」として再分類されます。

中長期レポ取引も「長期市場資金」に含まれます。

最後に、CIB の相手方当事者で、われわれと商業的関係を結んでいる銀行は、キャッシュ・バランスシートの作成では顧客とみなされます。

2024 年 6 月 30 日現在の当グループのバンキング部門のキャッシュ・バランスシートは 1 兆 7,220 億ユーロで、**安定資産に対する安定資金の超過額は 1,980 億ユーロ**でした。6 月の TLTRO の返済 (50 億ユーロ) 後で、2024 年 3 月末と比べて 120 億ユーロ増加しました。

さらに、クレディ・アグリコル・グループの TLTRO 3 残高の合計は 2024 年 6 月 30 日時点で 7 億ユーロとなり、当四半期中の返済により 51 億ユーロ減少しました。

また、流動性が超過していることから、2024 年 6 月 30 日現在、当グループは短期貸付のポジション (中央銀行預け金が短期債務純額を上回っていること) を維持しています。

中長期市場資金は 2024 年 6 月 30 日現在で 2,620 億ユーロとなり、2024 年 3 月末から変動はありません。優先シニア債の発行は、2024 年 6 月の T-LTRO 3 の返済を相殺しました。

これには、770 億ユーロの担保付きシニア債、1,270 億ユーロの優先シニア債、340 億ユーロの非優先シニア債、240 億ユーロの Tier 2 債券が含まれます。

2024 年 6 月 30 日時点の当グループの流動性準備金は、ヘアカット後の時価で 4,780 億ユーロとなり、2024 年 3 月 31 日から 20 億ユーロ増加しました。

流動性準備金は短期債務純額の 2 倍以上に達しました (中央銀行との置き換えを除く)。流動性準備金の増加の主な要因は、以下のとおりです。

- TLTRO 返済後の担保解除 (プラス 50 億ユーロ)

- 2 万 5,000 ユーロ未満の債務に関する TRICP の適用が 30 億ユーロで終了

クレディ・アグリコル・グループは、即時利用可能な準備金（ECB の資金供給に依拠した後）を維持する取組みを継続しています。ヘアカット後の中央銀行適格非 HQLA 資産は 1,580 億ユーロとなりました。

信用機関は、2018 年 1 月 1 日に 100%に設定されたこの LCR レシオの基準値を条件付けられます。

2024 年 6 月 30 日時点での月末の LCR レシオは、クレディ・アグリコル・グループが 146%（998 億ユーロの余剰に相当）、**クレディ・アグリコル S.A.が 152%**（963 億ユーロの余剰に相当）でした。これは、およそ 110%という中期計画目標を上回りました。

加えて、**クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.の安定調達比率（NSFR）は 100%を超え**、2021 年 6 月 28 日以降適用される規制要件に適合し、100%超という MTP 目標を上回っています。

当グループは、投資家基盤と商品の点で非常に多様な市場アクセスを確保して、今後も**中長期資金供給**について慎重な方針に従います。

2024 年 6 月 30 日時点で、当グループの主要発行体は、中・長期債によって市場で 400 億ユーロ相当額^{65、66}を調達し、このうちの 47%がクレディ・アグリコル S.A.によって発行されました。具体的には、グループでは以下の金額が計上されています。

- クレディ・アグリコル CIB は、グリーンボンド形式の 13 億ユーロを含め、仕組債形式で 143 億ユーロ発行しました。
- クレディ・アグリコル・パーソナル・ファイナンス&モビリティ（旧クレディ・アグリコル・コンシューマー・ファイナンス）は、クレディ・アグリコル・オートバンク（CAAB）を介して 15 億ユーロ相当の EMTN を、また証券化により 3 億ユーロ相当を発行しました。
- CA イタリアは総額 15 億ユーロの 2 件の担保付きシニア債を発行し、そのうち 5 億ユーロはグリーン形式で発行しました。
- クレディ・アグリコル・ネクスト・バンク（スイス）は、総額 2 億スイスフランの担保付きシニア債形式で 2 件のトランシェを発行し、そのうち 1 億スイスフランはグリーンボンド形式で発行しました。

当グループの中長期の資金調達の内訳は以下の通りです。

- 担保付き資金調達 86 億ユーロ
- プレーンバニラ無担保資金調達 152 億ユーロ
- ストラクチャード・ファイナンス 142 億ユーロ
- 機関からの長期預金と CD 21 億ユーロ

さらに、92 億ユーロがオフマーケットの発行により調達され、以下の内訳となりました。

- バンキング・ネットワーク（当グループのリテール・バンキングまたは外部のネットワーク）から 72 億ユーロ
- 国際的な組織または金融機関から 4 億ユーロ
- 国内の借り換え媒体（信用機関 CRH を含む）から 16 億ユーロ

⁶⁵ 買戻し及び部分返済控除前の総額

⁶⁶ AT1 発行を除く

2024年6月30日、クレディ・アグリコル S.A.は市場を通じて188億ユーロ相当の資金^{67、68}を調達しました。これは2024年の借換プログラムの72%に相当します。

当行は188億ユーロ相当額を調達し、6月末時点で、このうち32億ユーロ相当額が非優先シニア債、25億ユーロ相当額がTier 2債券、66億ユーロ相当額が優先シニア債、65億ユーロ相当額が担保付シニア債でした。資金調達は以下を含め、様々な形式と通貨で構成されています。

- 38億ユーロ⁶⁹
- 48億5,000万米ドル（45億ユーロ相当）
- 6億ポンド（7億ユーロ相当）
- 2,300億円（14億ユーロ相当）
- 5億スイスフラン（6億ユーロ相当）
- 17億5,000万豪ドル（11億ユーロ相当）
- 25億人民元（3億ユーロ相当）

クレディ・アグリコル S.A.は6月末時点で資金調達計画の69%をユーロ以外の通貨で発行しています^{70、71}。

2024年1月2日にクレディ・アグリコル S.A.は12億5,000万ユーロのNC6年AT1永久債を発行し、当初の利率は6.5%でした。またAT1債券（144A:US225313AL91 & RegS:USF2R125CF03）について、2024年9月23日の初回コール日に12億5,000万ドルの償還を発表しました。

6月末以降、13億ユーロの追加資金を調達しました。このうち、ソーシャルボンド形式で非優先シニア債が7億5,000万ユーロで1回、また満期3年と5年のシニア優先デュアル・トランシェ形式の人民元建て債券が6億ユーロ相当で1回発行されました。

したがって、7月末時点での発行額は201億ユーロ、すなわち2024年の資金調達計画の77%⁷²となりました。

⁶⁷ 買戻し及び部分返済控除前の総額

⁶⁸ AT1発行を除く

⁶⁹ 担保付きシニア債を除く。

⁷⁰ 担保付きシニア債を除く。

⁷¹ AT1発行を除く

⁷² AT1発行を除く

経済・金融環境

2024年上半期のレビュー

米国では、2023年の景気の特徴であった強靱性が2024年上半期も概ね持続しました。第1四半期の成長率は1.3%（年率換算の四半期成長率）に減速しましたが、その構成要素を分析すると、より明るい内容で、減速の大部分は在庫や純輸出といった変動の大きい要素によるもので、民間内需は好調を維持し、2.8%増加しました。雇用市場の活況に加えて、金利に対する短期的な感応度の低下（バランスシートの強化、債務コストの持続的低下）からすると、成長は過去数十年で最も積極的な金融引き締めに対して十分持ちこたえました（フェデラル・ファンド金利は1年半弱で525ベース・ポイント上昇し、2023年8月に5.50%に達しました）。

ディスインフレにもかかわらず、サービス価格が高止まりしていることからすると、インフレが非常に根強いいため、金融政策が緩和されませんでした。6月の総合インフレ率はエネルギー価格の低下により意外な結果となりましたが、高水準で推移しました（前年同月比3%）。基礎インフレ率（エネルギーと食品を除く）も同様で、前年同月比3.3%でした。それにもかかわらず、ディスインフレのプロセスはすべての構成要素で見られます。基礎的な財の価格はやや低下し（前年比1.8%低下）、基礎的なサービス（エネルギーを除くサービス）のインフレ率は2022年4月以来の低水準に下落しました（前年比5.1%）。サービス価格の上昇は高止まりしていますが、インフレに関するこのニュースはやや安心感を与えています。

中国では、公表されたばかりの第2四半期のデータによれば、GDP成長率が大幅に減速し（前四半期比1.5%から0.7%に下落）、前年同期比5%となりました。それゆえ、成長の減速は予想以上に急激でした。成長の減速は依然、内需の弱さに起因しており、不動産セクターの危機により家計消費と投資が低迷しており、見通しは依然悲観的です。純輸出は引き続き、成長に寄与しましたが、その程度は以前よりも縮小しました。

ユーロ圏では、2024年度第1四半期の成長率（前四半期比0.3%）はほぼ停滞していた2023年と比べて上昇しました。この上昇は過去の衝撃、特にウクライナでの戦争に関連する衝撃、を消し去るものではないため、大局的にみるべきでしょう。したがって、ユーロ圏のGDPは2024年度第1四半期、ソブリン債危機から新型コロナ危機の間（すなわち2013年から2019年まで）のトレンドが継続していた場合に到達していた可能性のある水準をわずかに下回りました。それでも、成長率は2024年に上昇して0.3%となっており、予想外の好材料で、主に純輸出の伸びによるものでした。一方で国内需要は縮小し、在庫調整が強まりました。個人消費の緩やかな伸び、政府支出の停滞、投資の急減の結果、内需が低迷しました。家計消費が伸びを欠いたことは期待はずれでした。家計の可処分所得の購買力が高まっているにもかかわらず、引き続き支出よりも貯蓄が優先されているようです。

フランスでは、消費と貿易が牽引し、2024年第1四半期の成長率が前四半期比0.2%となりましたが、投資が2四半期連続でわずかながら減少し、在庫調整が引き続き成長の足かせとなりました。2024年の成長の上振れは、第1四半期末時点で0.6%です。

期待外れの事項があったにもかかわらず、ユーロ圏全体でディスインフレーションが続きました。インフレ率は5月にやや上昇しました（2023年5月の6.1%に対して前年比2.6%）。これは、ドイツのエネルギーおよび輸送コストのベース効果などによるものでした。基礎インフレ率は、サービス価格の底堅さに牽引され（前年比4.1%で、総合インフレに1.8ポイント超寄与）、2.9%に上昇しました。

金融政策に関しては、年初来、米連邦準備制度（Fed）と欧州中央銀行（ECB）のメンバーは、将来の利下げの時機や程度に関して、過度に楽観的な市場の期待を抑えることに努めてきました。

米国では、当グループのシナリオでは、主要金利の早期かつ大幅な引下げは想定していません。Fedは、2024年12月までにフェデラル・ファンド金利が3.65%まで低下すると2024年1月に予想していた市場が期待するピボット（通貨政策転換）ではなく、プラトー（高金利維持）を好み、主要金利を長期にわたって高水準に設定していました。現在、Fedは頑強なインフレ、依然として力強い成長、わずかに減速した労働市場を前に、フェデラル・ファンド金利を5.50%に据えています。パウエルFRB議長は7月上旬、連邦議会の公聴会でFRBの半期金融政策報告を行った際、若干表現を和らげました。最近のデータが労働市場の減速の「明確な兆候」を示していることを強調し、高インフレ率だけがリスクではないと述べました。また、インフレ率が2%に戻る前に金利が低下するだろうと指摘すると同時に、ディスインフレの傾向を確認できるデータがさらに必要だと改めて述べました。

米国の現状は、ECBが6月に2019年9月以来の利下げを実施し、暫定的な金融緩和政策に踏み切ることを妨げるものではありませんでした。ECBの25ベース・ポイントの利下げは広く予想されており、預金金利、借換金利、限界貸出金利をそれぞれ3.75%、4.25%、4.50%に押し下げました。インフレ率は依然として目標の2%を上回っていますが、ECBはディスインフレのなかでの進捗とインフレ予想の低下を考慮しました。今後の金利の動向については何も示唆していません。さらに、利下げにもかかわらず、金融政策のスタンスは依然として抑制的で、企業が人件費の上昇を価格に転嫁す

るのを防ぐため、内需の緩和を促進することが意図されています。

急速な金融緩和による2023年10月からの急劇な低下を見込んでいましたが、頑強なインフレが金融緩和の延期の根拠となり、金利はわずかながら上昇しました。米国では、2年スワップ金利（6月末時点で4.60%）と10年スワップ金利（6月末時点で3.40%）が6か月間で合計60ベース・ポイント上昇しました。ユーロ圏では、6月のECBの主要金利引き下げで若干低下するまで、上記の2つのスワップ金利が緩やかに上昇しました。6月末時点で、ユーロ圏の2年および10年スワップ金利はそれぞれ3.20%および2.80%前後で、上半期にそれぞれ42ベース・ポイントおよび35ベース・ポイント上昇しました。同期間に、ドイツ10年国債（ブンド）の利回りは45ベース・ポイント上昇し、6月末時点で2.45%となりました。対ブンドのイタリアのリスクプレミアムは縮小しましたが（6月末時点で10ベース・ポイント減の158ベース・ポイント）、フランスのスプレッドは、国民議会解散に伴う不透明感から30ベース・ポイント近く拡大し、6月末時点で80ベース・ポイントに達しました。株式市場に関しては、S&P500種株価指数が引き続き好調でしたが（上半期に15%超上昇）、欧州の株価指数（ユーロ・ストックス50）は8.5%上昇し、CAC40指数は1.5%の上昇にとどまりました。最後に、ユーロは上半期、対ドルで1.6%の下落にとどまりました。ドル高の要因としては、下降の兆しがあるにもかかわらず米国の景気が持ちこたえていること、ECBが主導する金融緩和のペースに差があること、ドナルド・トランプ氏が大統領選挙で勝利する見通しであることなどがあげられます。

2024年下半期と2025年の見通し

経済および金融のシナリオは、強度の異なる政治的な不確実性を背景に作成されています。こうした不確実性は近い将来（フランスの国民議会選挙）、または2024年下半期（米国の大統領選挙）に解決されるでしょう。後者のイベントは国際的なシナリオの概要を大きく形成または変更する可能性が高いですが、前者のイベントは国際的なシナリオを完全に覆す可能性は低いでしょう。ユーロ圏では、個人消費に支えられて、成長が加速する可能性が依然として高いです。米国に見られる亀裂は、成長を急落させることなく抑制する可能性が高いことから、成長は引き続き強靭さを示す可能性があります。

米国では、Fedの金融政策による景気後退の影響は懸念されたほど深刻ではありませんでしたが、消えてはおらず、時間とともに感じられるでしょう。企業債務は増加しており、2024年および2025年により高い金利で借り換えられるでしょう。住宅ローンの実効金利は徐々に上昇し、他の種類の債務（クレジットカード、自動車ローン）の債務不履行が増加し、余剰貯蓄が（特に低所得世帯で）使い果たされ、貯蓄率が大幅に低下しています。こうしたことが、2024年から2025年にかけての緩やかな景気後退を依然として予想する最初の亀裂です。2023年の成長率は2.5%でしたが、当グループのシナリオは、2024年の成長率を2.0%、2025年の成長率をわずか0.4%として作成しています。ただし、2024年下半期には金利低下により四半期の成長率が上向くことが予想されており、成長率の低下と、景気が引き続き予想外に強靭性を再び示すという代替シナリオを組み合わせています。景気減速に伴い、インフレ率は引き続き、緩やかかつ不規則に低下するでしょう。世界全体のインフレ率は夏に3%を下回り、2024年下半期には2.5%から3%の間で変動するでしょう。2025年は、年初に低下した後、2.4%前後で安定し、年末までFedの目標である2%を上回ると考えられます。

中国については、多くの不確定要素がシナリオの重荷になることから、当グループの予想成長率（2024年4.7%、2025年4.2%、また平均インフレ率は0.5%、1.4%と非常に低水準）は政府目標の5%より控えめです。短期的には、米国のほか、特に欧州における保護主義的措置の拡大に関連するものが主なリスクとなります。ジョー・バイデン大統領が発表した、中国の象徴的な輸出製品（ソーラーパネル、バッテリー、電気自動車）に対する関税の引き上げは、主に政治的なものであり、経済的な影響は限定的でしょう。EUが発表したばかりの電気自動車に対する関税の引き上げは、すでに非常に大きな痛みを及ぼしています。EUは2023年に中国の電気自動車輸出の40%を占めていました。最後に、トランプ氏が大統領選で勝利すれば、すべての中国製輸入品への新たな関税引き上げの道が開かれ、その場合、60%の関税が課されるでしょう。またトランプ大統領が就任すれば、（メキシコやベトナムなどの第三国を経由して）関税を回避しようとする輸出業者も取り締まられる可能性があります。したがって、景気に対する予算面での支援の問題は引き続き重要です。経済問題に関する中国共産党の会議、三中全会が7月に開催される予定で、不動産セクターを支援する新たな措置が発表される見込みです。

ユーロ圏では、欧州議会選挙の結果、欧州議会の代表は概ねバランスがとれていますが、フランスでの投票に関連する不確実性が下振れリスクをもたらしました。当グループの中心的なシナリオは、国民議会解散前の「不変の政策」に基づいて設計・算定されていますが、このリスクは織り込んでおらず、主な仮説（個人消費主導の成長加速の原則が該当していますが、消費者はまだ慎重で、デフインフレ傾向は不安定化すると思われる）を維持しています。インフレ率の低下は、その恩恵がすでに見られますが、現在は、やや順調さを欠いており、不透明になっています。これは主に、サービスのインフレ率の慣性によるもので、給与交渉における過去の購買力低下からの回復の遅れに関連した給与コストの圧縮の遅れを反映しています。最後に、消費は景気回復の原動力ですが、世界の製造サイクルの傾向（最終需要の強靭性と在庫の補充）により、海外需要の若干の増加を伴う可能性があり、ユーロ圏のGDP成長率は2024年に0.8%、2025年に1.5%それぞれ上昇する可能性があります。

フランスでは、成長率は下半期に伸びて、2023年と同じペース（すなわち年平均1.1%）となり、その後やや上昇する（2025年は1.3%）と予想されます。貿易が2024年の成長率にプラスに寄与する（0.9パーセント・ポイント）と予想され、回復余地（特に航空分野）があれば、輸出は引き続き拡大するでしょう。それでも、成長は主に家計消費（2024年に1.1%増、2025年に1.3%増）に牽引され続ける見通しで、名目賃金の大幅な伸びの継続とディスインフレ傾向の継続による購買力の上昇が後押しするでしょう。消費者物価指数に代表されるインフレ率は、2024年に年平均2.3%、2025年に1.5%に低下すると予想されます。

金融政策の面では、目標値への収束の遅れを示す米国のインフレ率、成長の強靭性、下落の兆候が最近見られるものの高い雇用率は、警戒感を引き起こし、金融緩和を遅らせる必要性を示しています。Fedが、インフレ率が2%に確実に収束していることを確信し、主要金利の最初の引き下げを実施するにはもう少し時間が必要でしょう。最初の利下げは9月に実施され、その後12月に追加の利下げが実施される可能性があり、2024年の利下げは累計50ベーシス・ポイントになるでしょう。2025年には、金融緩和はより積極的になり、年初3四半期で合計150ベーシス・ポイントとなる可能性があります。しかし、この予想は比較的悲観的な経済シナリオに基づいています。景気と労働市場が予想以上に強靭であることが判明すれば、Fedは利下げペースをより緩やかにする可能性があります。

米国の現状は、ECBが独自の金融緩和策に踏み切ることを妨げるものではありませんでした。ECBの金融緩和策は、ユーロ圏が大幅な下落圧力を受けた場合、または予想以上に力強い回復、特にインフレの再燃が見られた場合を除き、継続されるでしょう。インフレ率は、総合および基礎インフレ率ともに2025年下半年に2%前後に収束するでしょう。これにより、ECBは6月に25ベーシス・ポイントの利下げで開始した金融緩和策を引き延ばすことができます。当グループのシナリオでは、ECBは2025年9月まで四半期ごとに預金金利を25ベーシス・ポイント引き下げ、当グループが中立的な金利と推定する2.50%まで引き上げるという緩やかで継続的な緩和を想定しています。

金利には緩やかな上昇圧力がかかるでしょう。実際、金融緩和は以前から予想されていました。金融緩和が開始しても、または目前に迫っても（しかし、米国のように後退している）、金利が低下する保証はありません。忍び寄るインフレ・リスクや中立金利の上昇の可能性など、複数の要因が金利の維持、あるいは緩やかな利上げまでも支持しています。米国については、当グループの金利見通しで、イールド・カーブ全体をやや上方修正しました。10年物国債の利回りについては現在、2024年末時点で4.30%、2025年末時点で4.05%と予想しています。ドットプロットで示された長期利回りの上方修正に注目されたい。10年物国債の利回りは2019年から2023年まで2.50%に留まっていたが、米連邦公開市場委員会（FOMC）の会合で2回連続で引き上げられ、3月の2.5625%から2.75%になりました。この利上げは中立金利の上昇の可能性を反映しており、脱グローバル化や、世界の中央銀行、政府系ファンド、各国の金融機関の米国債需要の鈍化に関連しているように思われます。

ユーロ圏では、ECBが主要金利の引き下げを開始し、今後も継続すると予想されます。市場はこの金融緩和のサイクルを十分に予想しており、預金金利は2.50%前後まで低下すると予想しています。欧州の成長や依然として高い財政赤字（ベルギー、フランス、イタリアは過剰財政赤字手続の対象となっており、9月までに財政赤字の削減計画を提出しなければなりません）について比較的楽観されるなか、欧州の国債利回りは、特にFedが緩和サイクルの開始を遅らせた場合には、低下する可能性はほとんどありません。当グループのシナリオは、2024年末のドイツの10年債利回りが2.65%前後となることを前提としています。フランス国民議会の解散後、スプレッドが縮小していた時期に、政治的リスク・プレミアム（債務のリデノミネーションのリスクはない）が高まった結果、フランス国債の対ブンドのスプレッドは80ベーシス・ポイント超に拡大しました。このフランス国債（OAT）とブンドのスプレッドは、明確な議会多数派の不在により、速やかに解決する可能性の低い政治的不確実性を踏まえると、変動する可能性があります。

最後に、Fedの金融政策の据え置きや大統領選挙でのトランプ氏勝利の可能性など、米国のイベントはおおむねドルには好材料となります。さらに、ユーロ圏の政治リスク、中南米の予算状況の悪化、逆に一部のアジア通貨またはユーロ圏外の欧州通貨の上昇傾向といった個別要因もあります。当グループのシナリオでは、ユーロは2024年末時点で1.05ドルまでやや下落すると想定しています。

付属資料 1 – 特殊要因（クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.）

クレディ・アグリコル・グループ – 特殊要因（2023 年度第 2 四半期、2024 年度第 2 四半期、2023 年度上半期、2024 年度上半期）

€m	Q2-24		Q2-23		H1-24		H1-23	
	Gross impact*	Impact on Net income						
DVA (LC)	37	27	(15)	(11)	42	31	(23)	(17)
Loan portfolio hedges (LC)	5	4	(1)	(1)	7	5	(25)	(18)
Home Purchase Savings Plans (LCL)	1	1	-	-	1	1	-	-
Home Purchase Savings Plans (CC)	(2)	(1)	-	-	(0)	(0)	-	-
Home Purchase Savings Plans (RB)	22	17	-	-	63	47	-	-
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	299	214	-	-	299	214
Check Image Exchange penalty (CC)	-	-	42	42	-	-	42	42
Check Image Exchange penalty (LCL)	-	-	21	21	-	-	21	21
Check Image Exchange penalty (RB)	-	-	42	42	-	-	42	42
Total impact on revenues	64	48	388	306	114	85	356	283
Degroof Petercam integration costs (AG)	(5)	(4)	-	-	(5)	(4)	-	-
ISB integration costs (LC)	(25)	(13)	-	-	(44)	(23)	-	-
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	(18)	(13)	-	-	(18)	(13)
Total impact on operating expenses	(30)	(17)	(18)	(13)	(50)	(27)	(18)	(13)
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	(85)	(61)	-	-	(85)	(61)
Provision for risk Ukraine (IRB)	-	-	-	-	(20)	(20)	-	-
Total impact on cost of credit risk	-	-	(85)	(61)	(20)	(20)	(85)	(61)
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	(12)	(12)	-	-	(12)	(12)
Total impact equity-accounted entities	-	-	(12)	(12)	-	-	(12)	(12)
Degroof Petercam acquisition costs (AG)	(12)	(9)	-	-	(20)	(15)	-	-
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	28	12	-	-	28	12
Total impact on Net income on other assets	(12)	(9)	28	12	(20)	(15)	28	12
Total impact of specific items	22	22	301	232	24	22	269	209
Asset gathering	(17)	(13)	-	-	(25)	(19)	-	-
French Retail banking	24	18	63	63	65	48	63	63
International Retail banking	-	-	-	-	(20)	(20)	-	-
Specialised financial services	-	-	212	140	-	-	212	140
Large customers	18	18	(16)	(12)	5	13	(47)	(35)
Corporate centre	(2)	(1)	42	42	(0)	(0)	42	42

* Impact before tax and before minority interests

クレディ・アグリコル S.A. — 特殊要因 (2023 年度第 2 四半期、2024 年度第 2 四半期、2023 年度上半期、2024 年度上半期)

€m	Q2-24		Q2-23		H1-24		H1-23	
	Gross impact*	Impact on Net income						
DVA (LC)	37	27	(15)	(11)	42	31	(23)	(16)
Loan portfolio hedges (LC)	5	4	(1)	(1)	7	5	(25)	(18)
Home Purchase Savings Plans (FRB)	1	1	-	-	3	2	-	-
Home Purchase Savings Plans (CC)	(2)	(1)	-	-	(2)	(1)	-	-
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	299	214	-	-	299	214
Check Image Exchange penalty (CC)	-	-	42	42	-	-	42	42
Check Image Exchange penalty (LCL)	-	-	21	20	-	-	21	20
Total impact on revenues	42	30	346	264	51	37	315	241
Degroof Petercam integration costs (AG)	(5)	(4)	-	-	(5)	(4)	-	-
ISB integration costs (LC)	(25)	(13)	-	-	(44)	(23)	-	-
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	(18)	(13)	-	-	(18)	(13)
Total impact on operating expenses	(30)	(17)	(18)	(13)	(50)	(27)	(18)	(13)
Provision for risk Ukraine (IRB)	-	-	-	-	(20)	(20)	-	-
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	(85)	(61)	-	-	(85)	(61)
Total impact on cost of credit risk	-	-	(85)	(61)	(20)	(20)	(85)	(61)
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	(12)	(12)	-	-	(12)	(12)
Total impact equity-accounted entities	-	-	(12)	(12)	-	-	(12)	(12)
Degroof Petercam aquisition costs (AG)	(12)	(9)	-	-	(20)	(14)	-	-
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	28	12	-	-	28	12
Total impact Net income on other assets	(12)	(9)	28	12	(20)	(14)	28	12
Total impact of specific items	(0)	5	259	190	(39)	(25)	227	167
Asset gathering	(17)	(13)	-	-	(25)	(18)	-	-
French Retail banking	1	1	21	20	3	2	21	20
International Retail banking	-	-	-	-	(20)	(20)	-	-
Specialised financial services	-	-	212	140	-	-	212	140
Large customers	18	17	(16)	(11)	5	12	(47)	(34)
Corporate centre	(2)	(1)	42	42	(2)	(1)	42	42

* Impact before tax and before minority interests

付属資料 2 - クレディ・アグリコル・グループ : 部門別損益計算書

クレディ・アグリコル・グループ - 部門別実績 (2023 年度第 2 四半期と 2024 年度第 2 四半期)

€m	Q2-24 (stated)							
	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	3,255	979	1,051	1,946	889	2,223	(837)	9,507
Operating expenses excl. SRF	(2,560)	(591)	(573)	(813)	(443)	(1,204)	497	(5,687)
SRF	-	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	694	389	477	1,133	447	1,019	(340)	3,819
Cost of risk	(444)	(95)	(75)	(2)	(211)	(39)	(6)	(872)
Equity-accounted entities	2	-	-	33	29	10	-	74
Net income on other assets	1	2	0	(12)	(1)	2	(0)	(7)
Income before tax	253	296	402	1,152	265	993	(347)	3,014
Tax	(44)	(65)	(117)	(282)	(54)	(248)	48	(762)
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	-	-	-	-	-	-	-	-
Net income	209	231	285	870	210	745	(299)	2,252
Non controlling interests	(1)	(0)	(38)	(124)	(23)	(36)	(2)	(224)
Net income Group Share	208	231	247	746	187	710	(300)	2,028
€m	Q2-23 (stated)							
	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	3,353	959	1,741	1,005	1,162	1,905	(578)	9,546
Operating expenses excl. SRF	(2,448)	(554)	(715)	(520)	(430)	(1,038)	471	(5,233)
SRF	2	6	(0)	(0)	2	2	(6)	6
Gross operating income	907	411	1,026	485	735	869	(113)	4,319
Cost of risk	(405)	(69)	(0)	(125)	(304)	(32)	(3)	(938)
Equity-accounted entities	0	-	27	0	11	7	(0)	46
Net income on other assets	4	2	0	0	26	0	(0)	33
Income before tax	507	345	1,053	361	468	844	(116)	3,460
Tax	(93)	(76)	(245)	(105)	(143)	(174)	63	(772)
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	-	-	1	3	0	-	-	4
Net income	413	269	809	259	325	670	(53)	2,692
Non controlling interests	(0)	0	(122)	(39)	(21)	(34)	5	(211)
Net income Group Share	413	269	687	220	304	635	(48)	2 481

クレディ・アグリコル・グループ — 部門別実績 (2024 年度上半期と 2023 年度上半期)

€m	H1-24 (stated)							
	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	6,568	1,933	2,131	3,739	1,736	4,489	(1,565)	19,031
Operating expenses excl. SRF	(5,044)	(1,193)	(1,098)	(1,567)	(897)	(2,501)	1,024	(11,276)
SRF	-	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	1,524	740	1,033	2,172	839	1,988	(541)	7,755
Cost of risk	(691)	(214)	(159)	(5)	(429)	(5)	(20)	(1,523)
Equity-accounted entities	7	-	-	61	59	14	-	142
Net income on other assets	3	4	(0)	(20)	(1)	2	(2)	(14)
Income before tax	842	530	875	2,208	468	1,999	(563)	6,361
Tax	(191)	(119)	(260)	(501)	(97)	(482)	133	(1,517)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	-	-	-	-	-	-
Net income	651	412	615	1,707	372	1,517	(430)	4,843
Non controlling interests	(1)	(0)	(89)	(236)	(42)	(69)	6	(432)
Net income Group Share	650	412	525	1,471	330	1,448	(424)	4,412
€m	H1-23 (stated)							
	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	6,686	1,895	1,994	3,486	1,834	3,956	(1,378)	18,473
Operating expenses excl. SRF	(4,889)	(1,153)	(1,020)	(1,430)	(800)	(2,159)	935	(10,517)
SRF	(111)	(44)	(40)	(6)	(29)	(312)	(77)	(620)
Gross operating income	1,686	698	934	2,050	1,005	1,485	(521)	7,337
Cost of risk	(577)	(135)	(240)	(1)	(463)	(68)	(3)	(1,486)
Equity-accounted entities	7	-	1	49	85	11	(0)	153
Net income on other assets	6	2	0	0	25	5	(1)	37
Income before tax	1,122	566	695	2,098	652	1,433	(525)	6,042
Tax	(289)	(138)	(203)	(475)	(177)	(358)	157	(1,483)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	5	1	0	-	-	6
Net income	833	428	497	1,624	475	1,075	(368)	4,565
Non controlling interests	(0)	(0)	(79)	(233)	(44)	(54)	(4)	(415)
Net income Group Share	833	428	418	1,390	431	1,021	(372)	4,150

付属資料 3 -クレディ・アグリコル S.A.部門別業績

クレディ・アグリコル S.A. - 部門別業績 (2024 年度第 2 四半期と 2023 年度第 2 四半期)

€m	Q2-24 (stated)						
	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
Revenues	1,944	2,223	889	979	1,027	(267)	6,796
Operating expenses excl. SRF	(813)	(1,204)	(443)	(591)	(555)	(15)	(3,621)
SRF	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	1,131	1,019	447	389	472	(283)	3,175
Cost of risk	(2)	(39)	(211)	(95)	(72)	(5)	(424)
Equity-accounted entities	33	10	29	-	-	(25)	47
Net income on other assets	(12)	2	(1)	2	0	24	15
Income before tax	1,150	993	265	296	400	(289)	2,814
Tax	(283)	(248)	(54)	(65)	(117)	63	(704)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	-	-	-	-	-
Net income	867	745	210	231	283	(226)	2,110
Non controlling interests	(131)	(51)	(23)	(10)	(55)	(12)	(282)
Net income Group Share	736	694	187	220	228	(238)	1,828

En m€	Q2-23 (stated)						
	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
Revenues	1,732	1,906	1,162	959	982	(66)	6,676
Operating expenses excl. SRF	(715)	(1,038)	(430)	(554)	(503)	21	(3,218)
SRF	(0)	2	2	6	(0)	(6)	4
Gross operating income	1,017	869	735	411	479	(51)	3,461
Cost of risk	(0)	(32)	(304)	(69)	(127)	(2)	(534)
Equity-accounted entities	27	7	11	-	0	(19)	27
Net income on other assets	0	0	26	2	0	-	29
Income before tax	1,045	844	468	345	353	(71)	2,983
Tax	(246)	(174)	(143)	(76)	(103)	65	(677)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	1	-	0	-	3	-	4
Net income	799	670	325	269	252	(6)	2,309
Non controlling interests	(123)	(48)	(21)	(12)	(55)	(10)	(269)
Net income Group Share	676	622	304	257	197	(16)	2,040

クレディ・アグリコル S.A. — 部門別業績（2024 年度上半期と 2023 年度上半期）

En m€	H1-24 (stated)						
	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
Revenues	3,733	4,489	1,736	1,933	2,085	(374)	13,602
Operating expenses excl. SRF	(1,567)	(2,501)	(897)	(1,193)	(1,060)	(71)	(7,289)
SRF	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	2,166	1,988	839	740	1,024	(445)	6,312
Cost of risk	(5)	(5)	(429)	(214)	(154)	(16)	(824)
Equity-accounted entities	61	14	59	-	-	(46)	90
Net income on other assets	(20)	2	(1)	4	(0)	24	9
Income before tax	2,203	1,999	468	530	870	(483)	5,587
Tax	(502)	(482)	(97)	(119)	(259)	144	(1,315)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	-	-	-	-	-
Net income	1,701	1,517	372	412	610	(339)	4,273
Non controlling interests	(248)	(101)	(42)	(18)	(126)	(7)	(542)
Net income Group Share	1,453	1,416	330	393	485	(345)	3,731

En m€	H1-23 (stated)						
	AG	En m€	AG	En m€	AG	En m€	AG
Revenues	3,478	3,957	1,834	1,895	1,951	(318)	12,797
Operating expenses excl. SRF	(1,430)	(2,159)	(800)	(1,153)	(987)	(18)	(6,546)
SRF	(6)	(312)	(29)	(44)	(40)	(77)	(509)
Gross operating income	2,042	1,486	1,005	698	924	(413)	5,741
Cost of risk	(1)	(68)	(463)	(135)	(241)	(0)	(908)
Equity-accounted entities	49	11	85	-	1	(33)	113
Net income on other assets	0	5	25	2	0	-	33
Income before tax	2,090	1,433	652	566	684	(447)	4,979
Tax	(478)	(358)	(177)	(138)	(201)	153	(1,199)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	1	-	0	-	5	-	6
Net income	1,613	1,076	475	428	488	(293)	3,786
Non controlling interests	(239)	(77)	(44)	(19)	(113)	(27)	(520)
Net income Group Share	1,374	998	431	409	375	(321)	3,266

付属資料 4 – 1 株当たりのデータ

クレディ・アグリコル S.A. – 1 株当たり利益、1 株当たり純資産額及び RoTE

(€m)		Q2-2024	Q2-2023	H1-24	H1-23
Net income Group share - stated		1,828	2,040	3,731	3,266
- Interests on AT1, including issuance costs, before tax		(83)	(94)	(221)	(235)
- Foreign exchange impact on reimbursed AT1		-	-	(247)	-
NIGS attributable to ordinary shares - stated	[A]	1,745	1,946	3,263	3,031
Average number shares in issue, excluding treasury shares (m)	[B]	3,025	3,025	3,008	3,024
Net earnings per share - stated	[A]/[B]	0.58 €	0.64 €	1.08 €	1.00 €
Underlying net income Group share (NIGS)		1,823	1,850	3,756	3,100
Underlying NIGS attributable to ordinary shares	[C]	1,740	1,756	3,288	2,865
Net earnings per share - underlying	[C]/[B]	0.58 €	0.58 €	1.09 €	0.95 €
(€m)				30/06/2024	30/06/2023
Shareholder's equity Group share				70,396	67,879
- AT1 issuances				(7,164)	(7,235)
- Unrealised gains and losses on OCI - Group share				1,305	1,352
Net book value (NBV), not revaluated, attributable to ordin. sh.	[D]			64,537	61,997
- Goodwill & intangibles* - Group share				(17,775)	(17,077)
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ordinary sh.	[E]			46,763	44,920
Total shares in issue, excluding treasury shares (period end, m)	[F]			3,025	3,025
NBV per share, after deduction of dividend to pay (€)	[D]/[F]			21.3 €	20.5 €
TNBV per share, after deduction of dividend to pay (€)	[G]=[E]/[F]			15.5 €	14.9 €
* including goodwill in the equity-accounted entities					
(€m)				H1-24	H1-23
Net income Group share - stated	[K]			3,731	3,266
Impairment of intangible assets	[L]			0	0
IFRIC	[M]			-110	-542
Stated NIGS annualised	[N] = ([K]-[L]-[M])*2+[M]			7,572	7,075
Interests on AT1, including issuance costs, before tax, foreign exchange impact, annualised	[O]			-689	-470
Stated result adjusted	[P] = [N]+[O]			6,884	6,605
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ord. sh. - avg *** (3)	[J]			44,710	42,778
Stated ROTE adjusted (%)	= [P] / [J]			15.4%	15.4%
Underlying Net income Group share	[Q]			3,756	3,100
Underlying NIGS annualised	[R] = ([Q]-[M])*2+[M]			7,622	6,741
Underlying NIGS adjusted	[S] = [R]+[O]			6,934	6,271
Underlying ROTE adjusted(%)	= [S] / [J]			15.5%	14.7%

*** including assumption of dividend for the current exercise

(1) Underlying : see appendixes for more details on specific items

(2) Underlying ROTE calculated on the basis of an annualised underlying net income Group share and linearised IFRIC costs over the year

(3) Average of the TNBV not revalued attributable to ordinary shares, calculated between 31/12/2023 and 30/06/2024 (line [E]), restated with an assumption of dividend for current exercises

代替的業績指標⁷³

NBV（純資産額）（再評価されない）

再評価されない純資産額は、AT1債券の発行額、OCIグループ帰属分の未実現損益、及び年間業績に関する配当金想定額を控除した株主資本グループ帰属分に相当しています。

1株当たり純資産額、1株当たり純有形資産価額

株式の価値を計算する方法の1つ。これは、自己株式を除く期末の発行済株式数で除した純資産額です。

1株当たり純有形資産価額は、自己株式を除く期末の発行済株式数で除した、無形資産及びのれんを控除後の純資産額です。

EPS（1株当たり利益）

これは、自己株式を除く平均発行済株式数で除した、AT1債券利息控除後の純利益グループ帰属分です。EPSは、（各株主に支払われる利益部分（配当）ではなく）各株式に帰せられる利益部分を表します。これは、株式数が増加する場合、純利益グループ帰属分に変動がないと想定すると減少します。

コスト比率

コスト比率は、営業費用を収益で除すことで算定され、営業費用を賄うのに必要な収益の割合を表します。

リスク関連費用／残高

（ローリング4四半期の）信用リスク関連費用を、（期首における過去4四半期の平均）残高で除して算定されます。また、当該四半期の信用リスク関連費用の年換算額を当該四半期の期首残高で除して算出することもできます。同様に、当該期間のリスク関連費用を年換算し、期首の平均残高で除すこともできます。

2019年第1四半期より、算定に用いる残高は、引当金控除前の顧客残高です。

この指標の算出方法は、この指標が使用される度に明示されます。

要注意債権

要注意債権はデフォルト状態の債権です。融資先は、次の2つの条件のいずれかが満たされた場合にデフォルト状態とみなされます。

- 支払が概して90日超遅延している（支払遅延が融資先の財務状況とは無関係の理由による旨の事実を具体的な状況が指し示している場合を除く）。
- 担保権の執行などの特定の措置を活用する以外に、融資先がその信用債務を決済する可能性が低いと考えられる。

減損債権

不履行のリスクがあるために、引当金が設定された貸付金。

MREL

MREL（自己資本及び適格債務にかかわる最低要件）レシオは、欧州の「銀行再建・破綻処理指令」（BRRD）に定められています。この指令は、銀行危機に事前に対処し、金融の安定性を保護し、損失に対する納税者のリスクを軽減するために破綻処理当局に共通の手段と権限を与えることを目的として、EU全域で銀行の破綻処理枠組みを確立するものです。「BRRD2」として知られている2019年5月20日付の指令（EU）2019/879はBRRDを修正し、2020年12月21日付オールドナンス2020-1636によってフランス法に置き換えられました。

MRELレシオは、破綻処理の際に損失を吸収するために要求される自己資本と適格債務バッファーに相当します。BRRD2の下でMRELレシオは、リスク・ウェイト資産（RWA）並びにレバレッジ・エクスポージャーの比率（LRE）として表される、適格資本と債務の金額として計算されます。合計MRELレシオの分子として適格なのは、当グループの規制上の自己資本のほか、劣後債、非優先シニア債、及び特定の優先シニア債（満期まで1年以上のもの）といったコーポレー

⁷³APMは、財務諸表には表示されず、会計基準にも定義されていないが、基礎純利益グループ帰属分やRoTEなどの財務情報の提供において使用される財務指標です。これらは、会社の実際の業績を理解しやすくするために使用されます。各APM指標は、その定義において会計データとマッチングされます。

ト・センター及びクレディ・アグリコル・ネットワークの関連機関発行の適格債務です。

減損（又は不良）債権引当率

この比率は、引当金残高を減損顧客貸出金総額で除して算出されます。

減損（または不良）債権比率

この比率は、個別に評価減された引当金控除前の顧客貸付総額を、顧客貸付総額の合計で除算したものです。

TLAC

金融安定理事会（FSB）は、グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIBs）のペイルインと資本増強の能力の充分性評価を目的としたレシオの計算を定めています。この総損失吸収能力（TLAC）レシオは、破綻処理前及びその最中にG-SIBsがペイルインと資本増強の十分な能力を備えているかどうかを評価する手段を、破綻処理当局に提供します。これは、グローバルなシステム上重要な銀行（したがってクレディ・アグリコル・グループ）に適用されます。アグリコル TLAC レシオの要件は、CRR2 を介して EU 法に置き換えられ、2019 年 6 月 27 日より適用可能となりました。

TLAC レシオの分子として適格なのは、当グループの規制上の自己資本のほか、クレディ・アグリコル S.A. が発行した満期まで 1 年以上の劣後債及び適格非優先シニア債です。

純利益グループ帰属分

当該事業年度の税引後純利益（損失）。全部連結された子会社における純利益グループ帰属分から非支配持分に帰属する部分を控除した額に相当します。

基礎純利益グループ帰属分

会社の実際の利益を分かりやすくするため、基礎純利益グループ帰属分は、特殊要因（非経常的項目や例外的項目）控除後の表示純利益グループ帰属分を表します。

普通株式に帰せられる純利益グループ帰属分

普通株式に帰属する純利益グループ帰属分は、AT1 利息控除後で、税引前発行費用を含む、純利益グループ帰属分を表します。

RoTE（有形株主資本利益率）

RoTE（有形株主資本利益率）は、年換算後の純利益グループ帰属分を無形資産及びのれん控除後のグループの NBV で除すことによって、有形資本に対する収益率を測定します。年換算後の純利益グループ帰属分は、純利益グループ帰属分を年換算（第 1 四半期 × 4、上半期 × 2、9 ヶ月累計期間 × 4/3）し、無形資産の減損を除外し、IFRIC の影響を線形化で年換算して各期間を修正したものに相当します。

免責事項

クレディ・アグリコル S.A. およびクレディ・アグリコル・グループの 2024 年度第 2 四半期および上半期の財務情報は、本プレゼンテーション、添付の付属資料、プレスリリースから構成されています。これらは、<https://www.credit-agricole.com/en/finance/financial-publications> で入手可能です。

本プレゼンテーションは、当グループの動向に関する情報として提供される将来の情報を含む場合があります。このデータは、2019 年 3 月 14 日の EU 委託法令 2019/980（第 1 章第 1 条 d）の意味での予測ではありません。

この情報は、一定の競争環境や規制環境における多くの経済的仮定に基づいたシナリオから作成されました。したがって、これらの仮定は、実際の結果が予測と異なる原因となりうるランダムな要因に左右されます。同様に、財務諸表は、特に時価や資産の減損の計算において、見積りに基づいています。

読者は、自らの判断を下す前に、これらすべてのリスク要因と不確実性を考慮に入れる必要があります。

適用基準および比較可能性

2024 年 6 月 30 日までの 6 か月間の数値は、欧州連合で採択され、同日に適用可能な IFRS 及び施行されている適用可能な規制に従って作成されています。本財務情報は、IAS 第 34 号「中間財務報告」で規定されている中間期の財務諸表に相当するものではなく、監査を受けていません。

注記：クレディ・アグリコル S.A. 及びクレディ・アグリコル・グループの連結範囲には、AMF（フランスの金融市場庁）に提出されたクレディ・アグリコル S.A. 2023 ユニバーサル登録文書と A.01 改訂版（クレディ・アグリコル・グループに関するすべての規制情報を含む）以降、重要な変更はありません。

表および分析に含まれる数値の合計は、四捨五入のため、報告された合計と若干異なる場合があります。

2024 年 6 月 30 日時点で、インドスエズ・ウェルス・マネジメントは Degroof Petercam の買収を完了しており、現在、同社の長年の株主である CLdN Cobelfret と共同で Banque Degroof Petercam の株式の 65% を保有していますが、今後は 20% の株式を保有する予定です。

2024 年 6 月 30 日時点で、アムンディは、プライベート・アセットのマルチ運用投資ソリューションを提供する独立系資産運用会社 Alpha Associates の買収を完了しています。

決算スケジュール

2024 年 11 月 6 日	2024 年第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間の決算発表
2025 年 2 月 5 日	2024 年第 4 四半期及び 2024 年通年の決算発表
2025 年 4 月 30 日	2025 年第 1 四半期の決算発表
2025 年 5 月 14 日	総会
2025 年 7 月 31 日	2025 年第 2 四半期及び上半期の決算発表
2025 年 10 月 30 日	2025 年第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間の決算発表

問い合わせ先

クレディ・アグリコルのプレス対応担当者

アレクサンドル・バラット	+ 33 1 57 72 12 19	alexandre.barat@credit-agricole-sa.fr
オリヴィエ・タサン	+ 33 1 43 23 25 41	olivier.tassain@credit-agricole-sa.fr
マチルド・デュラン	+ 33 1 57 72 19 43	mathilde.durand@credit-agricole-sa.fr
ベネディクト・グヴェール	+ 33 1 49 53 43 64	benedicte.gouvert@ca-fnca.fr

クレディ・アグリコル S.A.IR 担当者

機関投資家	+ 33 1 43 23 04 31	investor.relations@credit-agricole-sa.fr
個人株主	+ 33 800 000 777 (フリーダイヤル - フランスのみ)	relation@actionnaires.credit-agricole.com
セシル・ムートン	+ 33 1 57 72 86 79	cecile.mouton@credit-agricole-sa.fr
株式 IR 担当 :		
ジャン=ヤン・アセラフ	+ 33 1 57 72 23 81	jean-yann.asserat@credit-agricole-sa.fr
フェティ・アズーグ	+ 33 1 57 72 03 75	fethi.azzoug@credit-agricole-sa.fr
ジョゼフィーヌ・ブルアール	+ 33 1 43 23 48 33	josephine.brouard@credit-agricole-sa.fr
オリアーネ・カンテ	+ 33 1 43 23 03 07	oriane.cante@credit-agricole-sa.fr
ニコラ・イアンナ	+ 33 1 43 23 55 51	nicolas.ianna@credit-agricole-sa.fr
レイラ・マムー	+ 33 1 57 72 07 93	leila.mamou@credit-agricole-sa.fr
アンナ・ピグレフスキー	+ 33 1 43 23 40 59	anna.pigoulevski@credit-agricole-sa.fr

信用投資家および格付機関担当 :

グウェナエル・レレスト	+ 33 1 57 72 57 84	gwenaelle.lereste@credit-agricole-sa.fr
フローレンス・クインティン・デ・ケルカディオ	+ 33 1 43 23 25 32	florence.quintindekercadio@credit-agricole-sa.fr

すべてのプレスリリースは、www.credit-agricole.com-www.creditagricole.info をご覧ください。



Crédit_Agricole



クレディ・アグリコル・グループ



creditagricole_sa